



速刈リ君 HAYAGARI kun

KOMERI ORIGINAL MOWING

取扱説明書

KJ-30



ワンポイント
アドバイス



この度は、当社製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。

- この取扱説明書には、事故を防ぐ重要な注意事項と本製品の取扱方法が指示されています。
- 本製品を使用する前に本取扱説明書を熟読し、十分理解された上で、ご使用ください。
- 本取扱説明書は必要なときにすぐに参照できるよう、大切に保管してください。
- 本取扱説明書が損傷や紛失により読めなくなった場合は、ご購入の販売店からお買い上げください。

お知らせ

- 混合比 50:1 の混合燃料でご使用ください。ガソリンのみで使用するとエンジンは故障します。
- 本製品は日本国内専用です。日本国内のみでご使用ください。



株式会社

丸山製作所

はじめに

- 本製品はエンジンで刃物を高速で回転させ、地表の雑草刈りを目的とした製品です。
- 目的以外の作業への使用や改造を行った場合は、保証の対象外となります。雑草刈り以外の作業や改造が原因での事故に関して、一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 製品の仕様変更などにより、ご購入の製品と本書の内容が一致しない場合がございます。
- 本取扱説明書は一般使用者および業務で本製品を使用される方、現場責任者を対象としています。
- 関係法令（消防法、廃棄物処理法、騒音規制法や騒音に関する条例）を遵守してください。
- 一般使用者の方で初めて自走式草刈機を使う方、または本製品の使用に自信の持てない方は、使用前に熟練者から指導を受けることを推奨します。

安全に作業するために

■ 使用目的

本製品は健康な 16 歳以上の方が、雑草刈りに使用することを目的とした製品です。けがや本製品の破損のおそれがあるため、目的以外の作業へ使用しないでください。

■ 警告表示について

本取扱説明書では、特に重要と考えられる取り扱い上の注意事項について次のように表示しています。

 **危険** … もし警告に従わなかった場合、死亡または重傷に至るもの。

 **警告** … その警告に従わなかった場合、死亡または重傷に至るおそれがあるもの。

 **注意** … その警告に従わなかった場合、けがに至るおそれがあるもの。および本製品や周辺の物的損害が発生するおそれがあるもの。

■ その他の表示について

お知らせ … 製品および付属品の取り扱いなどに関する重要な注意事項。

お願い …… 必ず実施していただきたい推奨事項。

■ シンボルマークについて

本製品および取扱説明書に下記のシンボルマークを掲載しています。このシンボルマークの意味をご理解の上で、ご使用ください。



製品の取り扱いにおいて、その行為を禁止する表示マーク。



製品の取り扱いにおいて、発火、破裂、高温などに関する注意事項であることを示す表示マーク。



製品の取り扱いにおいて、指示に基づく行為を強制する表示マーク。

	ご使用前に、取扱説明書をよく読んで理解し、使用すること。		排気ガスは人体に有害です。室内などの換気の悪い場所では運転しないこと。
	作業中は保護メガネ、耳栓、ヘルメットなどの防護具を必ず装着すること。		やけど防止のため、運転中およびエンジン停止後しばらくは、シリンダやマフラなどの高温部に触らないこと。
	混合燃料は引火性が高いので、給油の際は必ずエンジンを停止すること。また、こぼれた燃料は必ず拭き取ること。		回転刃に接触するとけがをするので、手や足を近づけないこと。
	混合燃料を使用すること。		作業現場のゴミや石などは取り除き、作業中は人、動物を近づけないこと。

本製品は刈刃を回転させて作業する機械です。取扱方法を誤ると事故を招きます。下記の注意事項を必ず守ってください。

 危険	
	下記の項目を必ず守ってください。 守らないと火災や事故に至ります。 ■ 混合燃料は引火性の高い燃料です。給油時や本製品を点検・整備するときは、近くで喫煙など火を使わないでください。 ■ 混合燃料を給油するときは、エンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。 ■ 作業中に混合燃料が漏れている場合は、火災に至るおそれがあり大変危険です。直ちにエンジンを停止して、ご購入の販売店に修理を依頼してください。 ■ 静電気による発火のおそれがあるため、混合燃料の保管・運搬には樹脂製の容器を使用しないでください。 ■ 混合燃料の運搬には金属製燃料缶を使用してください。
	下記の項目を必ず守ってください。 守らないと火災や事故に至ります。 ■ 作業を中断するときは、エンジンを停止してください。 ■ エンジンは停止直後も高温のため、可燃物のない場所に停めてください。 ■ 排気ガスは高温のため、排気ガスが放出される方向にある枯れ枝・枯葉などの可燃物を取り除いてから作業してください。
	■ 斜面の作業では、本製品の上（山）側に立って行なってください。 下（谷）側での作業は、足を滑らせたり、転倒した時に回転する刈刃に巻き込まれるおそれがあります。

警告

使用目的以外の使用禁止

- **本製品は雑草刈りを目的とした製品です。目的以外の作業には使用しないでください。**
目的以外に使用すると、刈刃との接触や刈刃からの飛散物により重傷に至るおそれや、他人に傷害を与えるおそれがあります。また、本製品が破損するおそれもあります。

改造禁止

- **本製品の改造は行わないでください。**
安全装置が機能しなくなる、本製品の破損や飛散物により事故や重傷に至るおそれがあります。
- **本製品を他の製品などに組み込んで使用しないでください。**
安全性を損ない事故や重傷に至るおそれがあります。

部品取り禁止

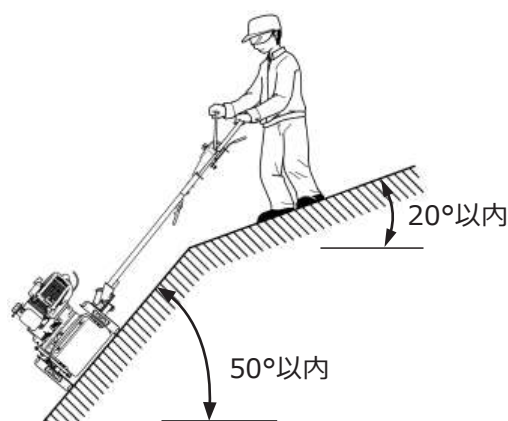
- **本製品からエンジンなどの組立部品や部品単体を取り外して、他の製品で使用しないでください。**
他の製品に使用すると本来の性能が発揮できないだけでなく、使用した製品の破損、事故や重傷に至るおそれがあります。

使用者に関する注意事項

- **心臓ペースメーカーを使用している方は、本製品を使用しないでください。**
使用すると心臓ペースメーカーが誤作動するおそれがあります。
- **体調の悪いとき、酒類を飲んだときは作業しないでください。**
正しい使い方ができず事故や重傷に至るおそれがあります。
- **16歳未満の人、妊娠している人は作業しないでください。**
正しい使い方ができず事故や重傷に至るおそれがあります。

使用環境に関する注意事項

- **降雨時や落雷のおそれがあるとき、夜間など見通しが悪いときは作業しないでください。**
感電、被雷、転倒、転落など事故や重傷に至るおそれがあります。
- **足元が滑りやすい場所、50°を超える急傾斜地では作業しないでください。また、作業者自身は20°以上の傾斜地に立たないでください。**
転倒してけがに至るおそれがあります。



- **本製品を室内などの換気の悪い場所では運転しないでください。**
一酸化炭素中毒に至るおそれがあります。



警告

作業着、保護具について

正しい服装の一例

ヘルメットを着け、あごひもを締める(あごひもの結びは外へ長く垂らさない)

耳栓／イヤーマフを着ける

フェイスシールドを着ける

保護メガネ(ゴーグル)を着ける

腕力バーを着ける

合図のための呼笛などは、垂らさずにポケットに入れる

防振用保護手袋を着ける

靴底に滑り止めが付いて、つま先に芯の入った長靴タイプの安全靴／耐切創長靴を履く

すね当てを着ける

- 袖や裾のしまりの良い長袖、長ズボンの衣服を着用し、ネクタイやネックレスなどのアクセサリーは外してください。また、髪の毛は肩より上でまとめてください。

回転部に巻き込まれ、けがに至るおそれがあります。

- 保護メガネ(ゴーグル)、フェイスシールド、耳栓やイヤーマフ、ヘルメット、保護手袋(防振用)、安全靴、すね当てなどの保護具を必ず装着してください。

刈刃との接触や刈刃からの飛散物、本製品からの作業音により、視覚障害、聴覚障害、けがなどの重傷に至るおそれがあります。

本製品を他人に貸すとき

- 本製品を他人に貸す場合は取扱方法をよく説明し、取扱説明書をよく読むように指導してください。

正しい使い方ができず事故や重傷に至るおそれがあります。



注意

始業点検の重要性

- 作業の前に始業点検を行ってください。

作業前に点検を行い、処置することにより故障や事故を未然に防ぐことができます。詳細は16ページの「4. 始業点検」を参照してください。

安全な自動車輸送

- 本製品は危険な燃料を積んだ重量物です。

10ページの「(2) 運搬の仕方」を参照してください。

警告ラベルの取り扱い

！ 注 意



下記の項目を守ってください。

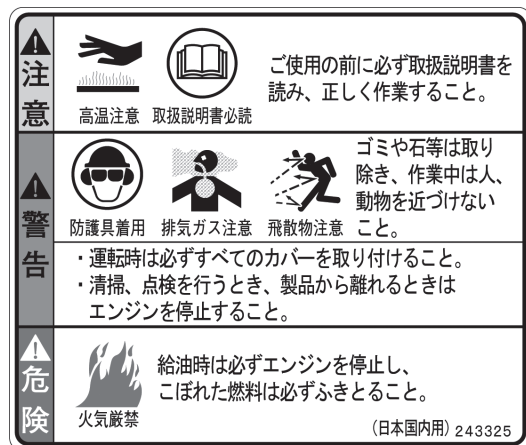
本製品の正しい使い方を確認できず、けがに至るおそれがあります。

- 警告ラベル表面の汚れや泥をとり、いつも表示内容がはっきりと見えるようにしてください。
- 警告ラベルが損傷したときは、新しいラベルを同じ位置に貼り替えてください。
※新しいラベルについては、ご購入の販売店に部品番号で注文してください。
- 警告ラベルが貼ってある部品を交換したときは、その部品にも必ず新しい警告ラベルを同じ場所に貼ってください。

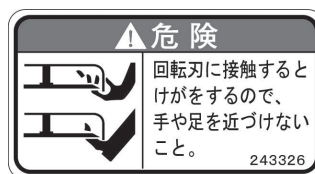
※本製品には、下の図に示す位置に下記の警告ラベルが貼ってあります。

本製品のご使用前に **1 ページの「■ シンボルマークについて」**を参照し、その意味を理解した上で、下記ラベルの表示内容を守って作業してください。また型式名、製造番号は、アフターサービスを受けるときに必要です。ご確認の上、裏表紙にメモしてください。

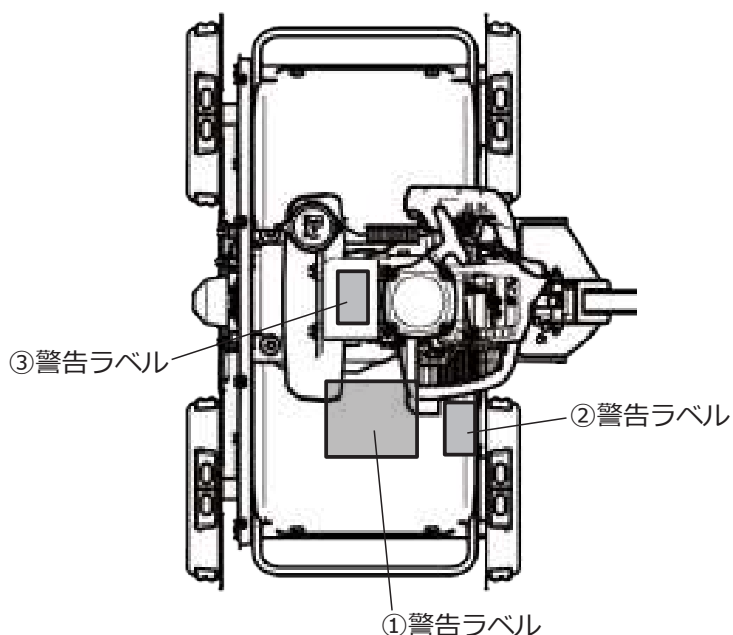
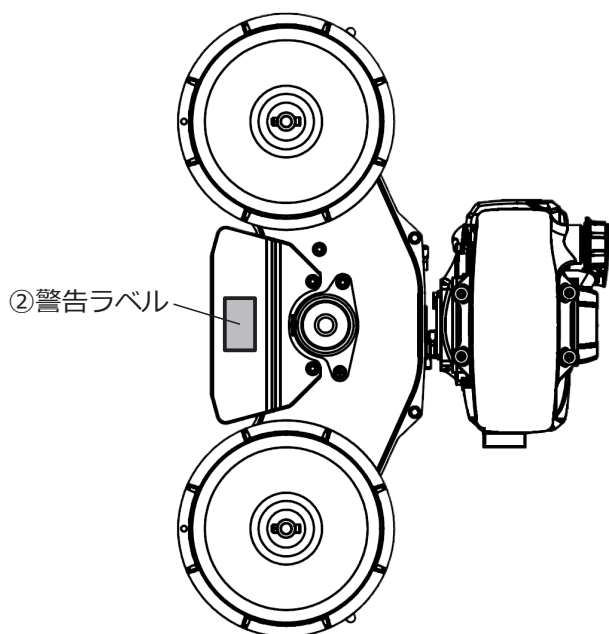
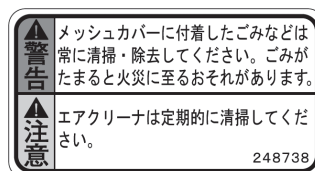
① 警告ラベル (部品番号 : 243325)



② 警告ラベル (部品番号 : 243326)



③ 警告ラベル (部品番号 : 248738)



目次

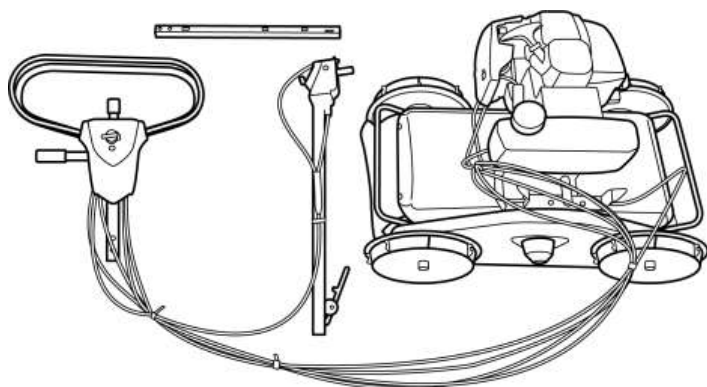
▲安全に作業するために	1	8. 点検・整備	34
警告ラベルの取り扱い	5	(1) 刈刃の交換	35
1. 梱包品と各部のなまえ	7	(2) 車輪駆動ボルトの交換	38
(1) 梱包品の確認	7	(3) 駆動チェーンの点検・調整	39
(2) 各部のなまえ	8	(4) 各ワイヤの点検・調整	41
2. 組み立て	9	(5) エアクリーナの清掃	44
3. 作業の準備	10	(6) スロットルバルブの清掃	45
(1) 作業者の服装と保護具の装着	10	(7) 点火プラグの清掃・調整	45
(2) 運搬の仕方	10	(8) 冷却風通路の清掃	46
(3) 作業現場の整備	14	(9) マフラの点検・整備	47
(4) 給油	14	(10) 燃料フィルタ・タンクの清掃	47
(5) ガソリンおよび混合燃料の廃棄	15	(11) ミッションオイルの点検・交換	48
(6) 作業計画	15	(12) デッキカバーの外し方	50
4. 始業点検	16	9. 混合燃料の作成	51
5. エンジンの始動と停止	18	10. 長期保管	53
(1) エンジンの始動	19	11. 故障と対策	54
(2) エンジンの冷却運転・停止	22	12. 転売・譲渡・廃棄	57
(3) エンジン始動フロー	23	13. 主要諸元	58
6. 移動走行について	24	14. オプション(純正品一覧)	60
(1) 走行のしかた	24		
(2) 停車のしかた	24		
(3) エンジンを止めて移動する場合	25		
7. 草刈り作業	25		
(1) ハンドル調整	26		
(2) 基本操作	27		
(3) 草刈り作業	31		
(4) 作業後	33		

1. 梱包品と各部のなまえ

(1) 梱包品の確認

開梱時に下図を参照して部品が揃っているか、破損や変形はないかを確認してください。問題がある場合は、ご購入の販売店にご連絡ください。

()内は部品番号です。



本体



取扱説明書 /1 冊
(243328)



保証書 /1 部



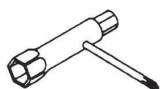
保護メガネ /1 個
(221460)



組立説明書 /1 部
(243861)



回り止め工具
/1 個
(243329)



コンビボックス
スパナ /1 個
(210418)



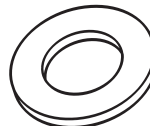
両口スパナ
8 × 10 /1 個
(022865)



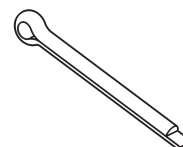
6 角棒スパナ
3mm /1 個
(219431)



6 角ボルト
/2 個
(549386)



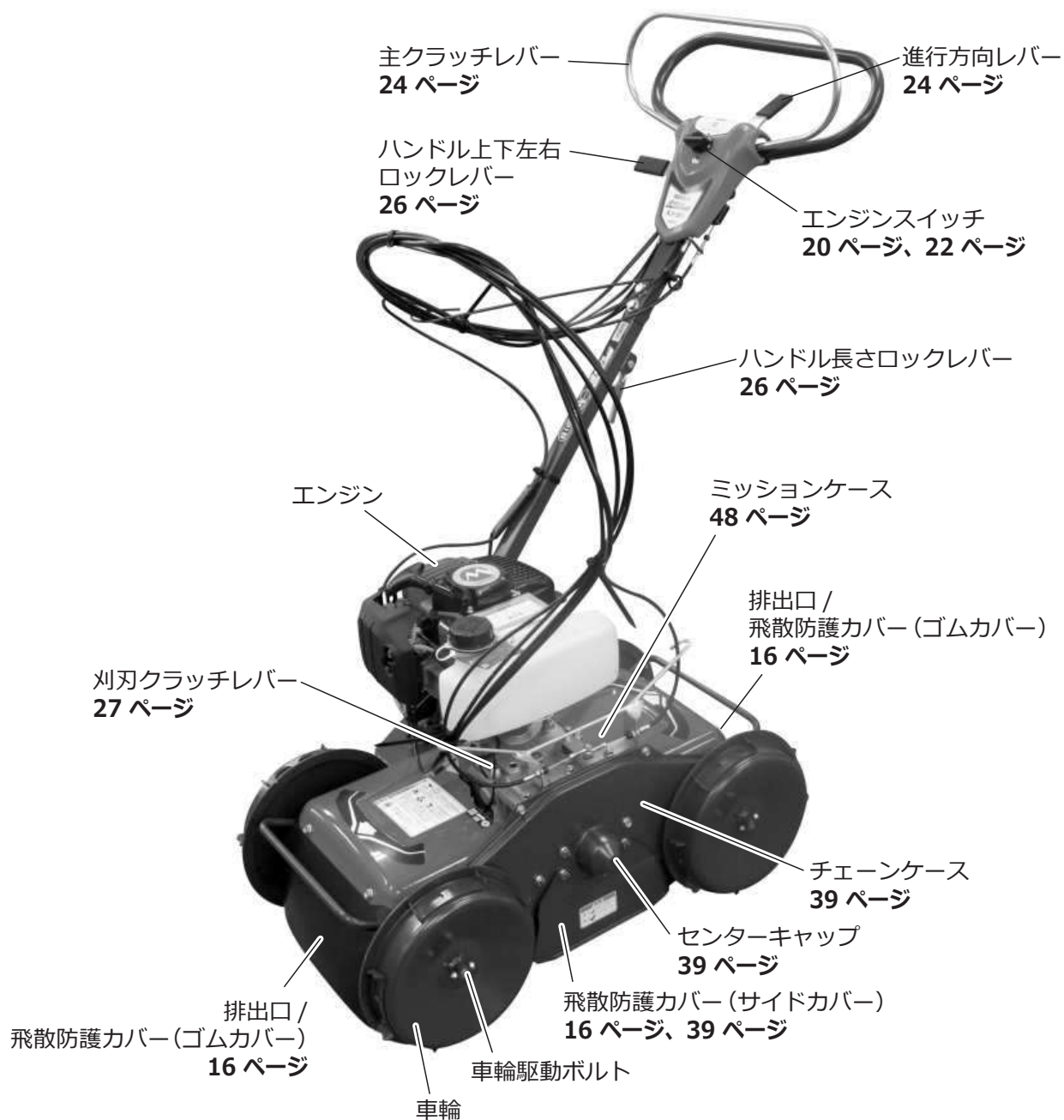
平座金
/1 個
(127263)



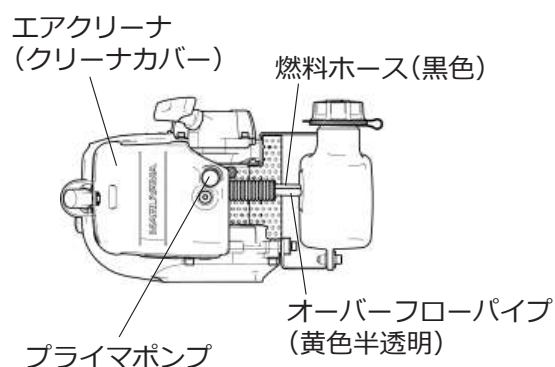
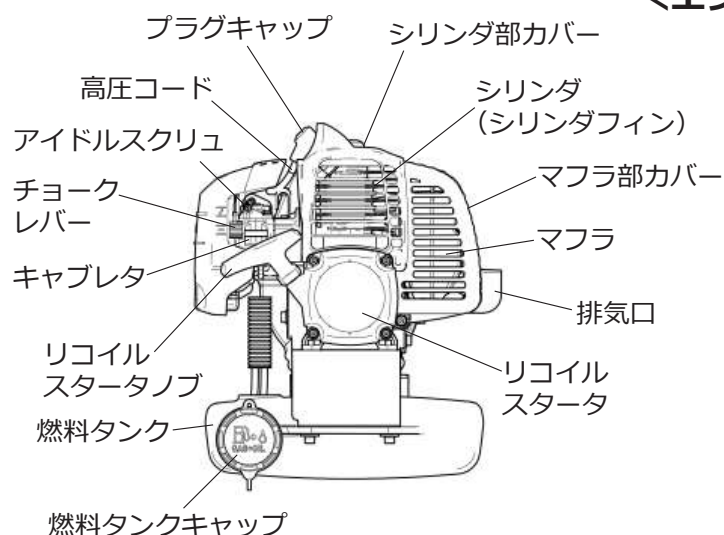
割りピン
/1 個
(014735)

(2) 各部のなまえ

図中に当該部品が関連する本取扱説明書のページ番号を示しています。



<エンジン>



2. 組み立て

「組立説明書」は別紙となっております。



警告



- 別紙の「組立説明書」に記載の内容を十分理解したうえで、正しく組み立ててください。
組み立てを誤ると事故や重傷に至るおそれがあります。



注意



- 関係のない人が立ち入らないようにしてください。
刈刃に接触するなど事故に至るおそれがあります。
- 周りに障害物がなく十分な明るさのある、水平で安定した場所で組み立ててください。
周りに障害物がある場所、暗い場所や不安定な場所では、組み立てが不適切となり事故に至るおそれがあります。

お願い

- 組み立てに自信の持てない方は、ご購入の販売店に組み立てを依頼してください。



警告



- 刈刃やその他の部品は、本製品に該当する純正品を使用してください。
間に合わせのものや粗悪なものを使用すると、早期破損やゆるみ、異常振動などにより、事故やけが、本製品の故障に至るおそれがあります。



注意



- 付属の刈刃は本製品による雑草刈り以外に使用しないでください。
目的外使用をすると事故やけがに至るおそれがあります。
- 純正品であっても仕様に記載された標準刈刃より大きい刈刃を使用しないでください。
使用すると故障に至るおそれがあります。

3. 作業の準備

お願い

- 事故やけがに備え救急箱や止血道具（タオルなど）を携行してください。応急処置が行えず、傷が悪化するおそれがあります。なお、最寄りの消防本部・消防署で実施している救命講習の講習会に参加して、応急手当の知識と技術を身に付けておくことを推奨いたします。
- 万一の事故に備えて緊急時に連絡できるようにしてください。また、家族などにも緊急連絡先（医療機関・消防署など）がわかるようにしてください。携帯電話などの緊急時の連絡手段の携帯を推奨いたします。
- ガソリンの取り扱いや草刈作業に取りかかる前に、発火・発煙・火災にそなえ消火器具、消火器、簡易消火器具（乾燥砂、砂をかけるためのスコップなど）を用意してください。なお、緊急時にあわてないように、消火器具などの使用方法を習得しておいてください。

(1) 作業者の服装と保護具の装着

作業に適した服装をして必要な保護具を装着してください。詳細は 4 ページの「正しい服装の一例」を参照してください。

 警告	
	■ 服装は長袖・長ズボンなどを着用し、体が露出する衣服は避けてください。シャツの裾などは必ずズボンの中に入れて、作業中に引っ掛かることのないようにしてください。また、必ず保護具を装着してください。 作業に適した服装または保護具を装着しないと、死亡または重傷に至るおそれがあります。

(2) 運搬の仕方

本製品を作業場所まで運ぶときは、エンジンの停止を確認し、下記の注意事項を守ってください。また、事前に 24 ページの「6. 移動走行について」をよく読んでください。

 危険	
	■ 混合燃料の運搬・保管には金属製燃料缶を使用してください。 樹脂製の容器は静電気により発火し、火災に至ります。

 注意	
	■ 乗用車など密閉状態で運搬する場合は、燃料タンク内の混合燃料を完全に抜き取り、別に用意した金属製燃料缶に移して運搬してください。 樹脂製タンクのため、静電気などにより発火するおそれがあります。
	■ 本製品のエンジンが停止直後の場合は、高温部分には触らないでください。 高温部への接触により、やけどに至るおそれがあります。
	■ 軽トラックなどの車両で運搬する場合は、本製品を確実に固定してください。 落下や接触などによりけがに至るおそれや、他人に傷害を与えるおそれがあります。 ■ 自動車への積み込み・積み降ろしは、平地で行ってください。 ■ 積み込み・積み降ろしは自動車の駐車ブレーキを確実に掛けてください。

1) トラックへの積み込み・積み降ろし

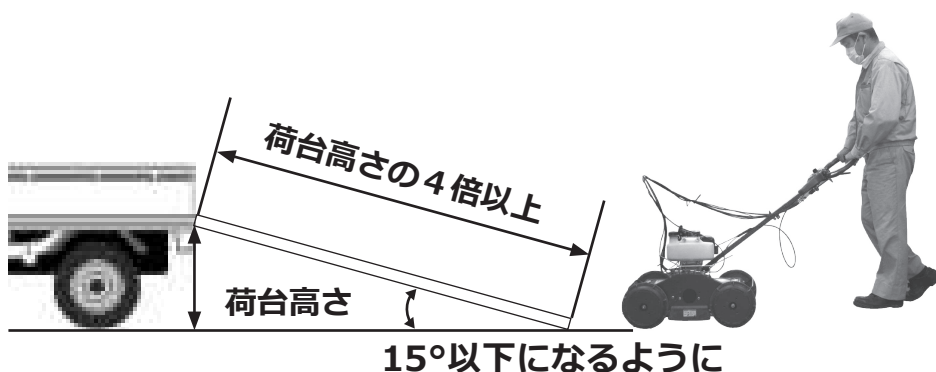
！ 注 意



- 積み込み・積み降ろしを 1 人で行う際は、あゆみ板を使用してください。
- あゆみ板はフックが付いているものを使用し、トラックの荷台に段差のないように確実に掛けてください。また、あゆみ板は、荷台高さの 4 倍以上の長さで、走行面が平面（はしご状でない）、滑り止めのある基準に合ったものを使用してください。
- 刈刃クラッチレバーは必ず「切」にしてください。
- あゆみ板は安定しているを確認してください。
- トラックへの積み込み・積み降ろしの際、あゆみ板の上で進行方向レバー、ハンドルロックレバーは操作しないでください。転落するおそれがあります。

<あゆみ板の基準>

長 さ	トラックの荷台の高さの 4 倍以上
幅	300mm 以上
縁の高さ	50mm 以下
数 量	2 枚
強 度	1 枚が 200kg 以上の耐荷重
形 状	走行面が平面で滑り止めのあるもの



- ① 作業者が進行方向の後ろ側に立つように、ハンドル位置を調節してください。
- ② 刈刃クラッチレバーを「切」にしてください。
- ③ エンジンを始動してください。(18 ページの「5. エンジンの始動と停止」を参照してください。)
- ④ 主クラッチレバーを「ON」にして本機を走行し、積み込んでください。
積み込みは前進（進行方向に対し、本製品が前で作業者が後）で、積み降ろしは後進（進行方向に対し、作業者が前で本製品が後）で行ってください。



2) 乗用車への積み込み・積み降ろし

お知らせ

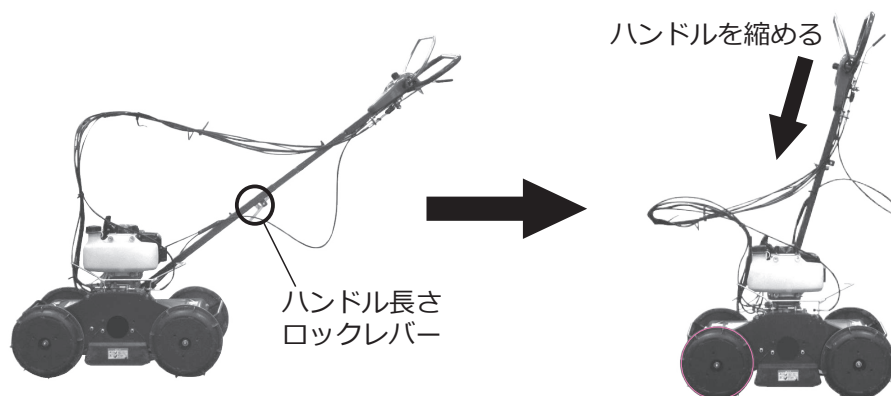
- セダンやライトバンなどの、車高が高くない車内への積み込みはできません。
ミニバンなど、荷室に余裕のある車種（ハンドルを立てた場合、室内高が 130cm 程度は必要です）に積み込んでください。

！ 注 意

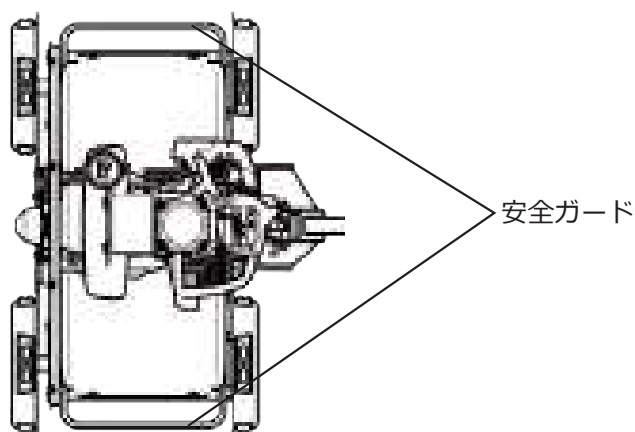


- 積み込み・積み降ろしは2人以上で行ってください。
- 乗用車などの密閉空間になる状態で本製品を運搬する場合は、燃料タンク内の燃料を完全に抜き取ってから積み込んでください。
- 燃料は、別に用意していた法で定められた金属製燃料缶に移して運搬してください。火災のおそれがあります。
- ハンドルを折りたたむ際は、手や体の一部などをはさみ込まないように、十分注意してください。

- ① ハンドル長さロックレバーでハンドルを一番短く調節してください。(26 ページの「2) ハンドル長さ調整」を参照してください。)



- ② 安全ガード部を持ち、自動車に積み込み・積み降ろしを行ってください。



お願い

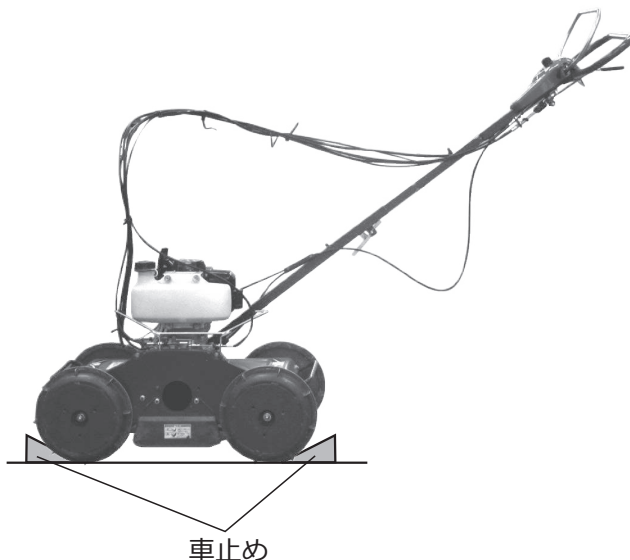
- 積み込む際は、ケーブルなどが他の部品に引っかからないか注意しながら、ゆっくりと操作してください。破損したり機能が損なわれるおそれがあります。
- 部品同士が当たらないよう、また自動車の内装と干渉しないようにハンドル位置を調整してください。
- 不整地走行用の車輪のため、トラックの荷台で滑ったり、乗用車の床面が傷付いたりするおそれがあります。車輪の下に板切れや厚手のゴムシートなどを敷いてください。

3) 輸送時の固定のしかた

！ 注 意

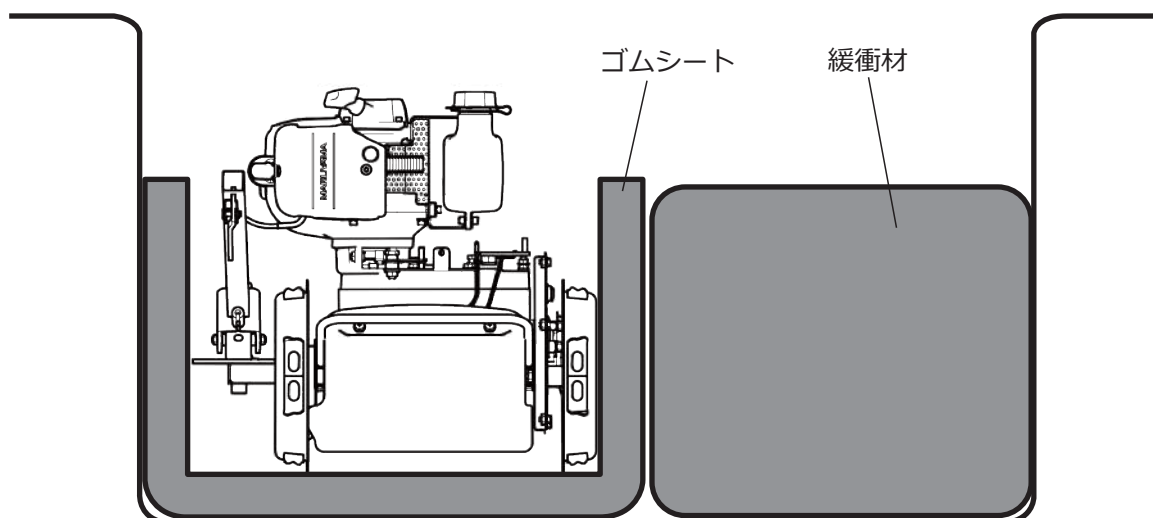


- 自動車の上ではエンジンを停止し、進行方向レバーを「<(白)」か「>(黄)」の位置に入れてください。
- 車止めをして、ロープなどで製品本体をしっかりと固定してください。ハンドル部は走行時のゆれ止め程度の固定とし、製品の荷重をハンドル部で支えるような強固なしぼり方はしないでください。曲がるおそれがあります。



お願い

- ロープを掛けるときは、各ワイヤを挟まないようにしてください。
- 機体が固定されていることを確認してから輸送してください。
- 乗用車のトランクなどに積込む場合は、ゴムシートや緩衝材などを機体と乗用車の間に入れ、機体が動かないよう固定してください。



(3) 作業現場の整備

作業現場にある障害物は事前に取り除いてください。

 警告	
	■ 壊れたフェンスの近くでは作業しないでください。 針金類は回転する刈刃に絡まるとムチのようにはねまわり、体に接触すると死亡または重傷に至るおそれがあります。
	■ 雑草刈りを行う現場に落ちているゴミ(空缶、空ビン、鉄クズ、針金、ひも、粗大ゴミなど)や砂利、小石など、作業の障害になるものを取り除いてください。 これらを取り除かないと飛散したり、絡みついた針金などが跳ね返ったりして事故や重傷に至るおそれがあります。 ■ 作業現場に電線管・水道管やガス管などの埋設物、打ち込まれた境界線、測量用の杭など、移動できない障害物がないことを作業前に十分に確かめてください。撤去できない障害物などがある場合は、目印を付け近づかないようにしてください。 障害物の近くで作業すると事故や重傷に至るおそれがあります。

(4) 給油

給油するときは、エンジンの停止を確認し、下記の注意事項を守ってください。

 危険	
	■ 混合燃料は引火性の高い燃料です。必ず火気厳禁を守ってください。 混合燃料に引火して火災に至ります。 ■ 混合燃料を給油するときは必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。 蒸発した燃料ガスに引火して火災に至ります。

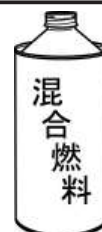
1) 混合燃料の用意

市販の2サイクル用混合燃料(50:1表示)を用意してください。

 注意	
	■ 混合燃料を給油してください。 ガソリンだけで運転すると、エンジンが焼き付き故障に至るおそれがあります。 ■ 混合燃料は容器に表示された保存期間を守ってください。保存期間が表示されていない場合は、1カ月以上経過した燃料は使用しないでください。 長期保管した燃料を使用するとエンジンが故障に至るおそれがあります。 ■ 混合燃料の保管は金属製の燃料缶を使用してください。 混合燃料を樹脂製の容器で保管すると、樹脂の成分が燃料の中に溶け出し、エンジン故障に至るおそれがあります。

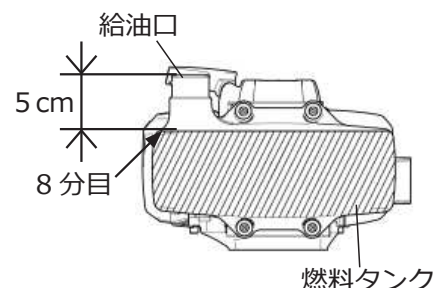
お知らせ

- 市販の混合燃料は、あらかじめガソリンとオイルが混合されているので、そのまま給油できます。60 ページの「14. オプション(純正品一覧)」にて純正混合燃料を紹介しています。



2) 混合燃料の給油

燃料タンクに混合燃料を少しずつ、ゆっくりと入れてください。
混合燃料は燃料タンクいっぱいに入れないで、8分目（給油口先端より約5cm）を目安にしてください。



！ 警告



こぼれた混合燃料の放置または燃料漏れなどがないように、下記の項目を必ず守ってください。
火災につながり、死亡または重傷に至るおそれがあります。

- 混合燃料はこぼさないように注意して入れてください。こぼした場合はきれいに拭き取ってください。
- 燃料タンクのキャップはしっかり締めて、給油口から混合燃料が漏れないことを確認してください。燃料漏れがある場合はキャップを増し締めしてください。もし燃料漏れが止まらない場合は、使用を中止し直ちにご購入の販売店へご相談ください。
- 給油時にエンジンや燃料タンク、燃料ホース、オーバーフローパイプ、ホース類の接続部からの燃料漏れやしみがないか確認してください。もし燃料漏れやしみがある場合は、使用を中止し直ちにご購入の販売店へご相談ください。

(5) ガソリンおよび混合燃料の廃棄

ガソリンおよび混合燃料（混合ガソリン）は危険物であり、廃棄物処理法の特別管理廃棄物に相当します。
みだりに廃棄すると法令による処罰の対象となります。廃棄する場合はお住まいの自治体の廃棄物担当部署に、ガソリン、または2サイクル用オイル混合燃料であることを明示して相談し、指示に従ってください。または、危険物を取り扱う専門の産業廃棄物処理業者に処分を依頼してください。

(6) 作業計画

作業を行う前にあらかじめ作業場所、作業手順（作業の準備・実作業・後片付けおよび日程などを含む）、緊急時の対応、作業者の配置、合図の方法などを決めた作業計画を立ててください。また、必要に応じて事前に打合せを行うなどにより、関係者に周知するとともに、その指揮する者を選んでください。

！ 注意



- 作業計画を立て遵守してください。
長時間の振動への曝露により振動障害に至るおそれや、疲労の蓄積を招くおそれ、さらに緊急時の対応が遅れ被害が拡大するおそれがあります。

4. 始業点検

その日の作業を始める前に行う点検が始業点検です。作業前に点検を行うことにより、事故や故障を未然に防止することができます。非常に大切な点検のため、下記の一覧表を参照して必ず実施してください。もし、ご自身での点検に不安のある方や交換・修理が必要な場合は、ご購入の販売店にご相談ください。

始業点検一覧表

点 検 項 目		処 置	参 照 先
刈刃	割れ、曲がり、ヒビ、カケ、摩耗がないか	研磨・目立て または交換	35 ページの「(1) 刈刃の交換」
刈刃ボルト 刈刃ナット	取付状態に異常がないか	正しく組み立てる	
ホルダ取付 ナット	ホルダ取付ナットに、ゆるみ、摩耗がないか	増し締め または交換	35 ページの「(1) 刈刃の交換」
ミッション ケース	ミッションケースにヒビ、損傷がないか	交換	
飛散防護カバー (サイドカバー/ ゴムカバー)	取付用ボルトのゆるみがないか	増し締め	
	破損がないか	交換	
ハンドル	取付用ボルト(ネジ類)にゆるみがないか	増し締め	
	変形または破損がないか	交換	
エンジン	エアクリーナのエレメントが詰まってい ないか	清掃	44 ページの「(5) エアクリーナの清掃」
	メッシュカバーに詰まりがないか	清掃	46 ページの「(8) 冷却風通路の清掃」
	冷却風通路に詰まりがないか	清掃	46 ページの「(8) 冷却風通路の清掃」
	燃料ホース類、接合部に不良がないか	交換	
	燃料タンク・キャップに破損がないか	交換	
	燃料タンクのキャップパッキンに不良が ないか	交換	
	マフラ排気口の詰まりがないか	修理	
	エアクリーナカバーの組立不良がないか	正しく組み立てる	44 ページの「(5) エアクリーナの清掃」
燃料	作業に必要な燃料があるか	混合燃料を 給油する	14 ページの「(4) 給油」
その他各部	各部にゆるみ、組み立てに異常がないか	増し締め 正しく組み立てる	



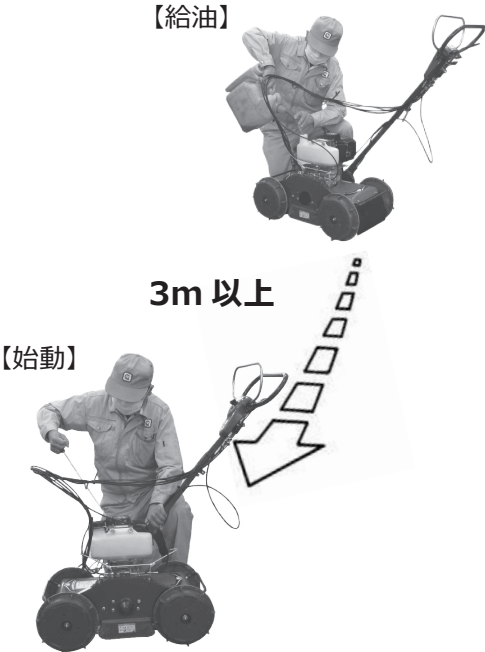
警告



- 始業点検一覧表に基づき点検を実施し、必要な場合は処置を施してください。
必要な処置をしないと死亡または重傷に至るおそれがあります。
- 刃物の点検をして損傷(刃物の割れ、カケ)のある刃物は交換してください。
刃物の状態が悪いものを使用すると、刃物の破損や飛散により死亡事故や重傷に至るおそれがあります。また、異常振動による疲労の蓄積や故障に至るおそれがあります。

5. エンジンの始動と停止

！ 警 告

	■ 本製品を室内などの換気の悪い場所では運転しないでください。 エンジンの排気ガスは有害です。換気の悪い場所で運転すると一酸化炭素中毒に至るおそれがあります。
	■ 始動は必ず給油した場所および燃料の入った容器から 3 m以上離れたところで行ってください。 給油場所や燃料の入った容器周辺に燃料がこぼれていたり、ガソリンが気化している場合があります。離れた場所で始動しないと引火して火災に至るおそれがあります。 ■ エンジンの運転中および停止直後は周囲 1 m以内に可燃物がないようにしてください。 排気ガスは高温です。また、マフラなど高温部は運転停止後であっても高温のため、近くに可燃物があると火災に至るおそれがあります。 
	■ 運転中のエンジンや排気ガスおよび停止直後のエンジンは高温です。接触したり排気ガスに当たらないようにしてください。 高温部に接触したり、排気ガスに当たり続けたりするとやけどに至るおそれがあります。 ■ 作業中に衣類の上からでも体が高温部に触れたり、排気ガスに当たらないようにしてください。 高温部に接触したり、排気ガスに当たり続けたりするとやけどに至るおそれがあります。 ■ 運転中のエンジンは熱く感じない部分であっても長時間の接触は避けてください。 接触し続けると、低温やけどに至るおそれがあります。
	■ エンジン始動時には、主クラッチレバーから手を離し「OFF」の位置にし、刈刃クラッチレバーを「切」の位置にしてください。 始動時に刈刃が回転し、接触すると重傷に至るおそれがあります。 ■ エンジン始動時アイドル状態で刈刃が回転する場合は、直ちにエンジンを停止しご購入の販売店に修理を依頼してください。 アイドル状態で刈刃が回転すると、回転する刈刃に接触し重傷に至るおそれがあります。

！ 注 意

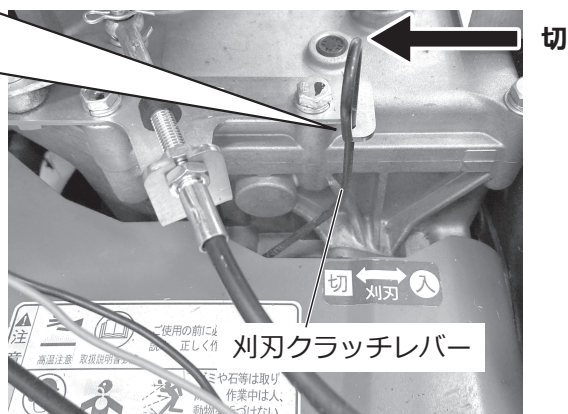
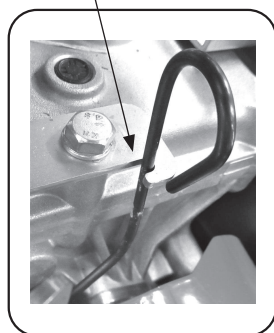
	■ 無線装置の近くでは、運転しないでください。 エンジンから発生する電波雑音は無線装置に影響を与えるおそれがあります。影響がある場合は使用を中止してください。
---	--

(1) エンジンの始動

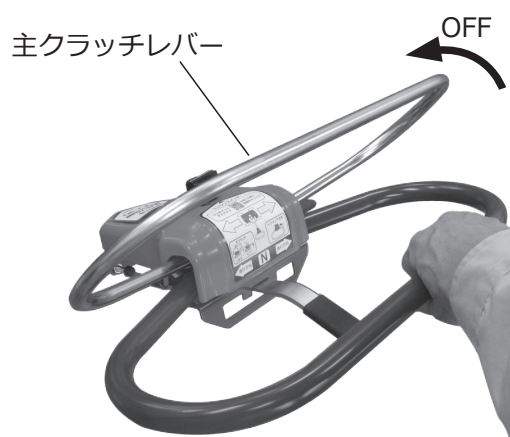
1) エンジン始動の準備

- ① 給油場所および燃料の入った容器から 3 m 以上離れた、平坦で周りに障害物のない地面に本製品を置いてください。
- ② 16 ページの「4. 始業点検」を行ってください。
- ③ 周囲 15m の範囲内（危険区域）に人や動物がいないかなどの周囲の安全を確認してください。
- ④ 刈刃クラッチレバーを「切」の位置にしてください。

溝にしっかり引っ掛ける

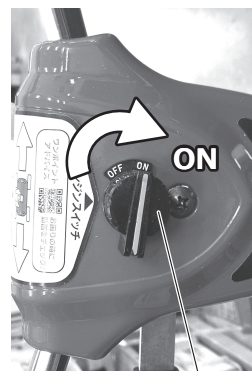


- ⑤ 主クラッチレバーから手を離し、「OFF」の位置にしてください。



2-1) エンジンが冷えている場合

- ① エンジンスイッチを「ON」位置にしてください。



エンジンスイッチ

- ② プライマポンプを矢印側から押す・離すの操作を、10 回程度繰り返し行ってください。オーバーフローパイプから燃料タンクに混合燃料が戻ります。

チョークレバー
ㄣ 閉
↑
≡ 開

プライマポンプ

リコイルスタータノブ

オーバーフローパイプ
(黄色半透明)



- ③ チョークレバーを ㄣ (閉) 側にしてください。
④ 周囲の安全を確認し、腰を十分に落とし本製品が動かないようにハンドル部根元近くを握り、しっかりと押さえてください。
⑤ リコイルスタータノブを数回勢いよく引いて始動してください。

お願い

- 勢いよくリコイルスタータノブを引かないとエンジンは始動しません。

始動ロープ
(最後まで引ききらないでください)

ハンドル部
根元を押さえる



- ⑥ エンジンが始動したら、ゆっくりチョークレバーを ≡ (開) の位置に戻してください。

※ エンジンが始動しない場合は下記の操作をしてください。

- 爆発音がしエンジンがすぐに止まったときは、チョークレバーを ≡ (開) 側にして、さらにリコイルスタータノブを引いて始動してください。
- リコイルスタータノブを 3 回程度引いても爆発音がしない、または聞き逃した場合は、チョークレバーを ≡ (開) 側にしてエンジンが始動するまで数回リコイルスタータノブを引いてください。

⚠ 注 意

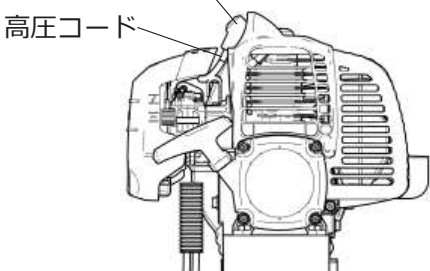
	■ 始動ロープは最後まで引ききらないでください。 引ききってしまうと破損に至るおそれがあります。 ■ チョークレバーが ㄩ (閉) 側のままリコイルスタータノブを何回も引き続けしないでください。 混合燃料がエンジンシリンダの中へ入り過ぎて、エンジンが始動できなくなるおそれがあります。
	■ リコイルスタータノブを引いた後は、リコイルスタータノブから手を離さずに戻してください。 リコイルスタータノブを引いてすぐに手を離すと、エンジンが故障に至るおそれがあります。

- ⑦ アイドリング状態で 1 分間程度暖機運転してください。暖機運転は主クラッチレバーから手を離し、アイドリング状態のままにしてください。

⚠ 警 告

	■ 暖機運転中は本製品から離れずに、人が近づかないようにしてください。 本製品が動いたり、刈刃に触れたりして傷害事故に至るおそれがあります。
---	--

⚠ 注 意

	■ 運転中はプラグキャップや高圧コードに触らないでください。 運転中に触ると、感電に至るおそれがあります。	プラグキャップ 高圧コード 
---	---	--

2-2) エンジンが暖まっている場合

- ① エンジンスイッチを「ON」位置にしてください。
- ② プライマポンプを矢印側から押す・離すの操作を、10 回程度繰り返して行ってください。オーバーフローパイプから燃料タンクに混合燃料が戻ります。
- ③ チョークレバーを確実に **ㄩ** (開) の位置にしてください。
- ④ 周囲の安全を確認し、腰を十分に落とし本製品が動かないようにハンドル部を握り、しっかりと押さえてください。
- ⑤ リコイルスタータノブを数回勢いよく引いて始動してください。



エンジンスイッチ

お願い

- 勢いよくリコイルスタータノブを引かないとエンジンは始動しません。

(2) エンジンの冷却運転・停止

- ① 主クラッチレバーを手から離すと、エンジン回転速度はアイドリング状態になります。アイドリング状態のまま、1 分間程度冷却運転をしてください。冷却運転しないでエンジンを停止するとアフターファイヤーが起き、爆発音を発生することがあります。
- ② エンジンスイッチを「OFF」位置にしてください。



エンジンスイッチ

※緊急停止方法

緊急時はエンジンスイッチを「OFF」位置にしてください。エンジンスイッチやリード線などの故障で、スイッチを操作してもエンジンが停止しないときは、緊急手段としてチョークレバーを ㍿ (閉) 側の位置にしてください。エンジンは失速停止します。その後直ちにご購入の販売店にエンジンスイッチなどの修理を依頼してください。



警告



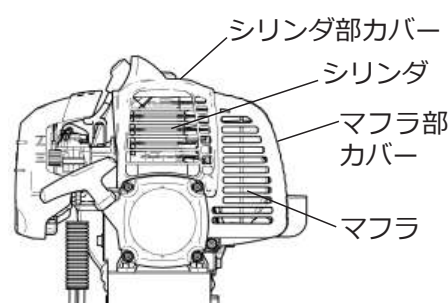
- 冷却運転中は本製品から離れずに、人が近づかないようにしてください。本製品が動いたり、刃に触れたりして傷害事故に至るおそれがあります。



警告



- 運転中、アイドリング中およびエンジン停止後しばらくは、シリンダやシリンダ部カバー、マフラ、マフラ部カバーなどの高温部に触らないでください。高温部に触るとやけどに至るおそれがあります。



注意



- 緊急時以外は主クラッチレバーを手から離し、エンジンをアイドリング状態で冷却運転してから停止してください。
高速回転で運転中に急に停止することは、エンジンに無理がかかり故障に至るおそれがあります。
- 実作業に入る前に、「(2) エンジンの冷却運転・停止」の項に従って、エンジンスイッチを操作してエンジンが停止することを確認し、始動・停止の練習をしてください。
エンジンの停止方法を体得しないとけがに至るおそれがあります。



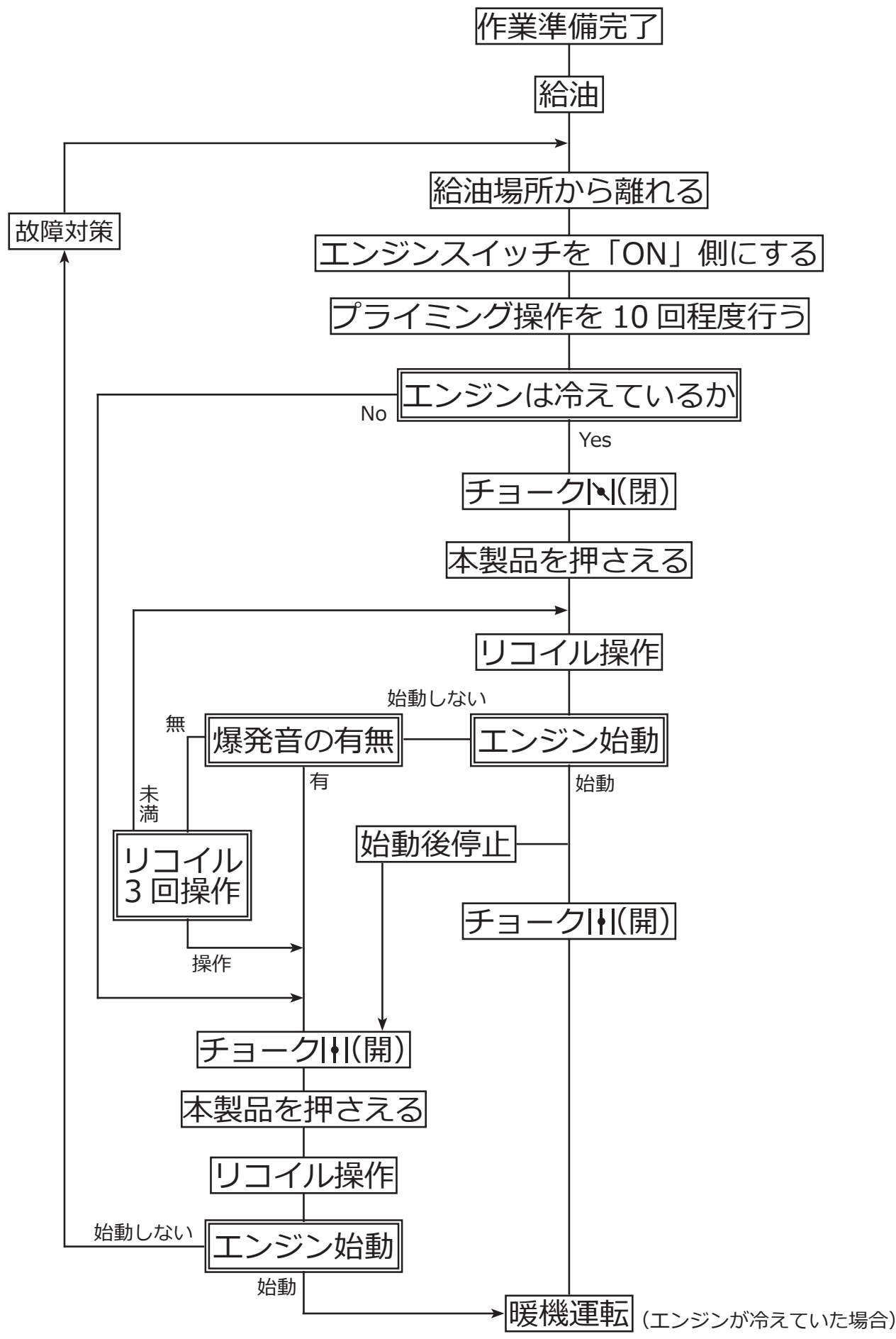
注意



- エンジンスイッチの修理が完了するまでは、本製品を運転しないでください。
修理していないとエンジンを止めることができず、けがに至るおそれがあります。

(3) エンジン始動フロー

エンジンの始動についてフロー図で示していますので、参照してください。



6. 移動走行について

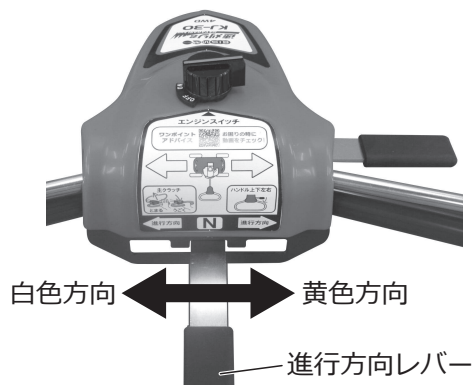
(1) 走行のしかた

！ 注意



- 周囲の人に合図をし、安全を確認してから走行操作を行ってください。
- 移動は刈刃クラッチレバーが「切」の位置で行ってください。

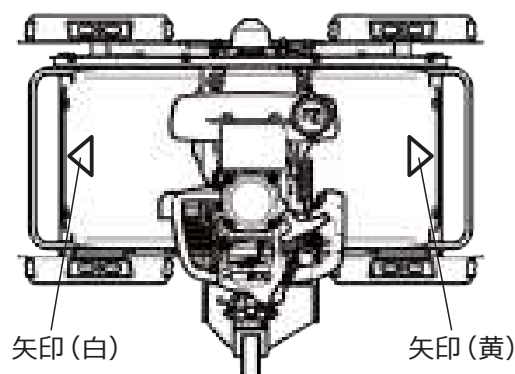
- ① エンジンを始動してください。(18 ページの「5. エンジンの始動と停止」を参照してください。)



- ② 進行方向レバーを、進みたい方向の切り込みに入れてください。
- ③ 主クラッチレバーを握り、「ON」にしてください。本製品が走行します。足元に注意して草刈り作業をしてください。

お知らせ

- 進行方向レバー近くのラベルには進行方向の矢印が白色と黄色に分かれていますが、これは排出口近くのカバーの矢印色と一致しています。



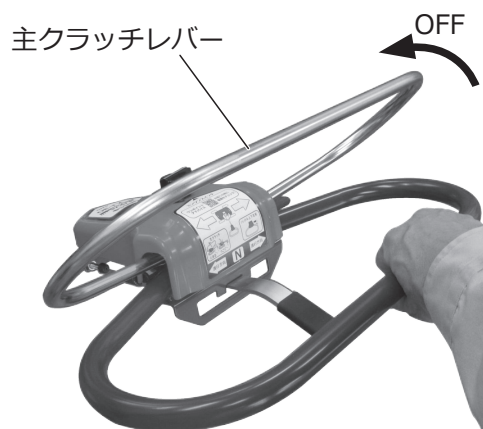
(2) 停車のしかた

！ 注意



- 停車する場合は、平たんな安定した場所にしてください。

- ① 主クラッチレバーから手を離し、「OFF」の位置にしてください。
- ② エンジンを停止させてください。(22 ページの「(2) エンジンの冷却運転・停止」を参照してください。)



⚠ 注意



- 故障により万が一、主クラッチレバーを離しても走行し続けた場合、エンジンスイッチを「OFF」位置にして緊急停止してください。
54 ページの「11. 故障と対策」を参照してください。



エンジンスイッチ

(3) エンジン进行移動する場合

エンジンを止めて移動する場合は、進行方向レバーを中立位置（「N」のマーク）にし、ハンドルを押す、または引いて移動してください。

7. 草刈り作業

⚠ 警告



- エンジン始動時アイドリング状態で刈刃が回転する場合は、直ちにエンジンを停止しご購入の販売店に修理を依頼してください。
アイドリング状態で刈刃が回転すると、回転する刈刃に接触し重傷に至るおそれがあります。

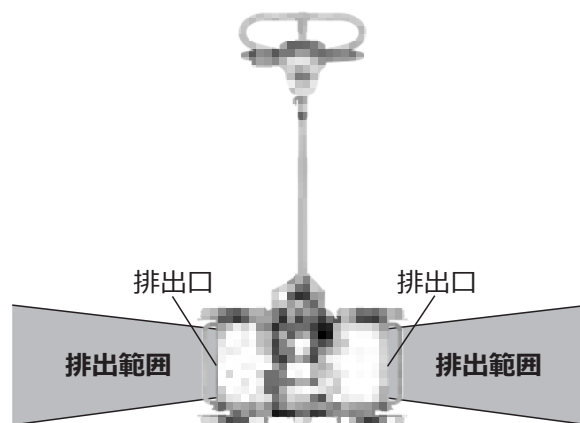
⚠ 注意



- 手足や体を冷やさない服装で作業してください。
手足や体が冷えると振動障害に至るおそれがあります。
- 高温や炎天下での長時間の連続作業を避け、定期的に休憩を取り、適度な水分補給を行ってください。
熱中症など、体に影響を及ぼすおそれがあります。

お願い

- 草刈り時、作業者は排出口側に立たないでください。
排出された土砂や刈草により足元が汚れます。



お願い

- 安全作業にとって効果的であるため、作業開始前に準備体操を行ってください。

お知らせ

- 本製品で刈れる最大草丈は約 60cm です。

(1) ハンドル調整

1) ハンドル上下角度調整



警告



- 調節時はエンジンを停止するか、主クラッチレバーを「OFF」の位置にしてください。
草刈り時および移動走行時に調節すると、本製品がバランスを失い転倒するおそれがあります。

お知らせ

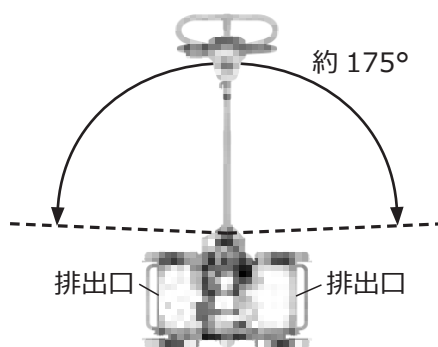
- 本製品のハンドル調整は、上下角度調整も左右回動調整もレバー 1 本で行うことができます。

ハンドルは上下角度を約 65°の範囲で調節することができます。また、支点部を中心に左右約 175°の範囲で回動することができます。

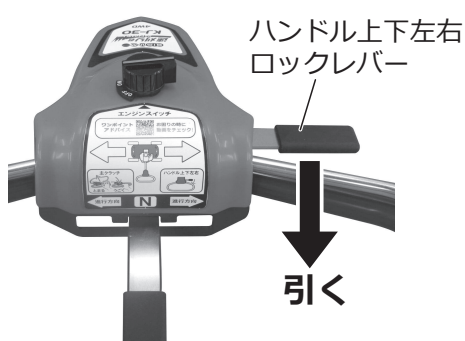
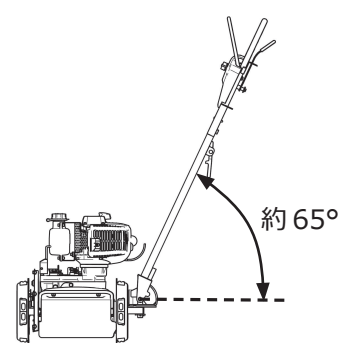
ハンドル上下左右ロックレバーを引き、ハンドル位置を作業状態に合わせて調節してください。

調節後は、確実にロックされていることを確認してください。

<左右角度>



<上下角度>

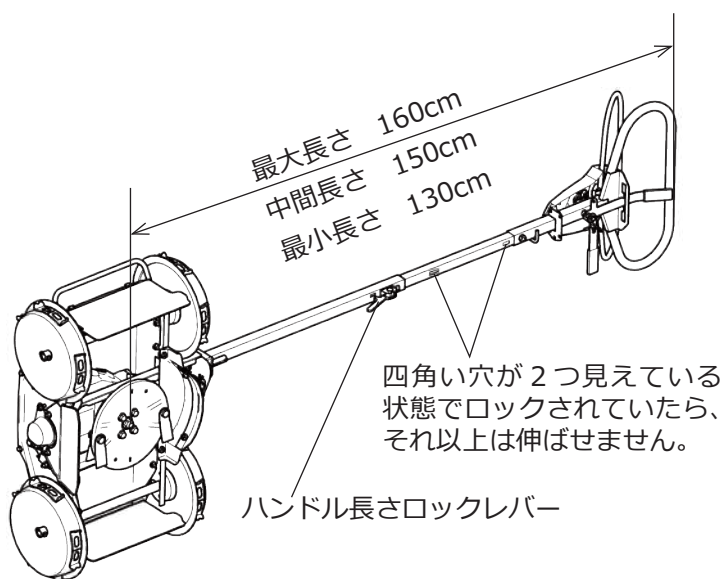


2) ハンドル長さ調整

ハンドルの長さを 3 段階に調整できます。

ハンドルパイプのハンドル長さロックレバーを握り、長さを調節してください。

最大長さを越えて調整しないでください。

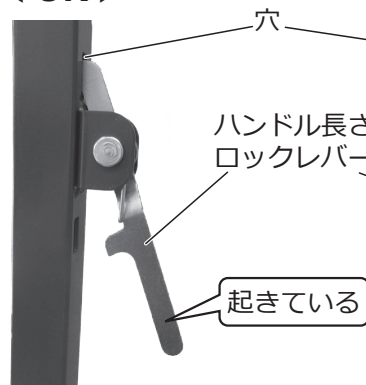


注意



- 調整後は図のように、ハンドル長さロックレバーが内部の穴にはまり、完全に起きた状態を確認してください。

<OK>



<NG>



(2) 基本操作

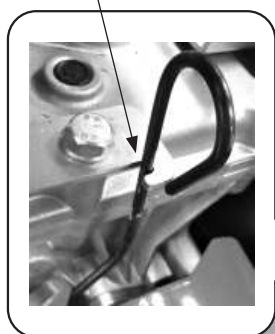
！ 注 意



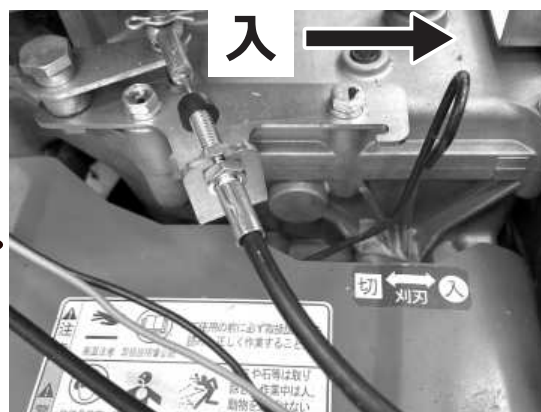
- 本製品に異常（異常音、異常振動、不具合）を感じたときは、直ちに作業を中止してご購入の販売店に修理を依頼してください。
異常のあるまま使用すると、事故に至るおそれがあります。
- 刈刃クラッチレバーの切り替えは主クラッチレバーから手を離して「OFF」の位置で行ってください。
「ON」の位置で行うと、本製品の故障につながるおそれがあります。
- 移動時など、草刈作業以外での走行では刈刃クラッチレバーを「切」にしてください。
空き缶などの異物をはね飛ばし、けがに至るおそれがあります。

- ① 作業状況に合わせて、ハンドル位置を調節してください。（26 ページの「(1) ハンドル調整」を参照してください。）
- ② エンジンを始動してください。（19 ページの「(1) エンジンの始動」を参照してください。）
- ③ 刈刃クラッチレバーを「入」の位置にしてください。

溝にしっかり引っ掛ける



切



入

刈刃止まる

刈刃回る

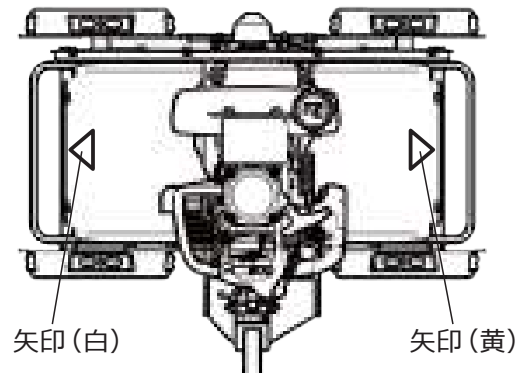
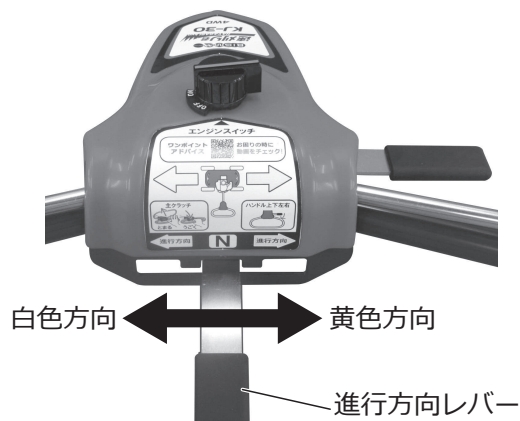
お知らせ

- 刈刃クラッチレバーを「入」にしないと、本製品が走行しても刈刃は回転しません。

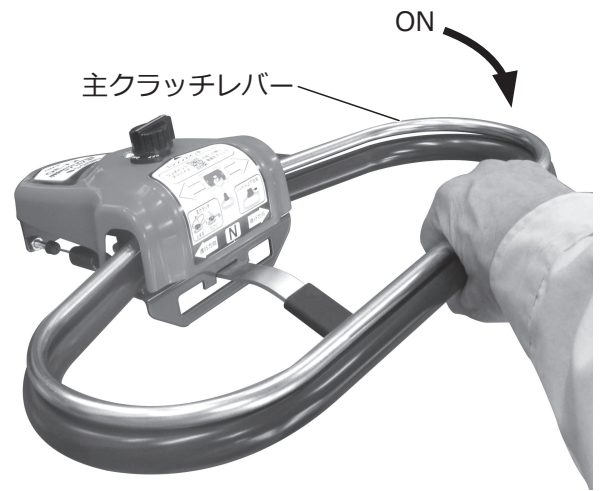
お願い

- 刈刃クラッチレバーの切り替えは主クラッチレバーから手を離して「OFF」の位置で行ってください。
「ON」の位置で行うと、本製品の故障につながるおそれがあります。

④ 進行方向レバーを、進みたい方向の切り込みに入れてください。



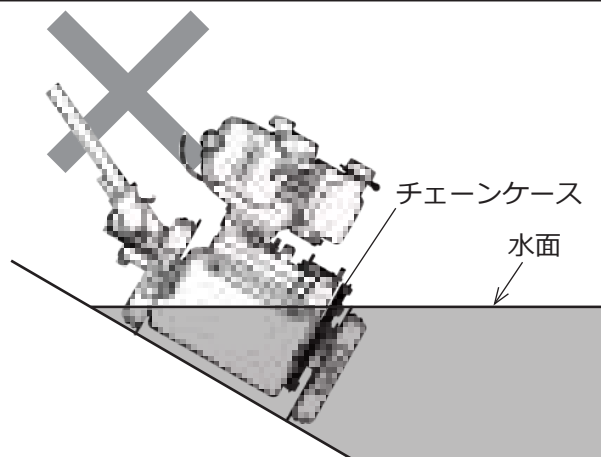
⑤ 主クラッチレバーを握って、「ON」にしてください。刈刃が回転し、本製品が走行します。足元に注意して草刈り作業をしてください。



⑥ 作業が終了したら停止させてください。(22 ページの「(2) エンジンの冷却運転・停止」を参照してください。)

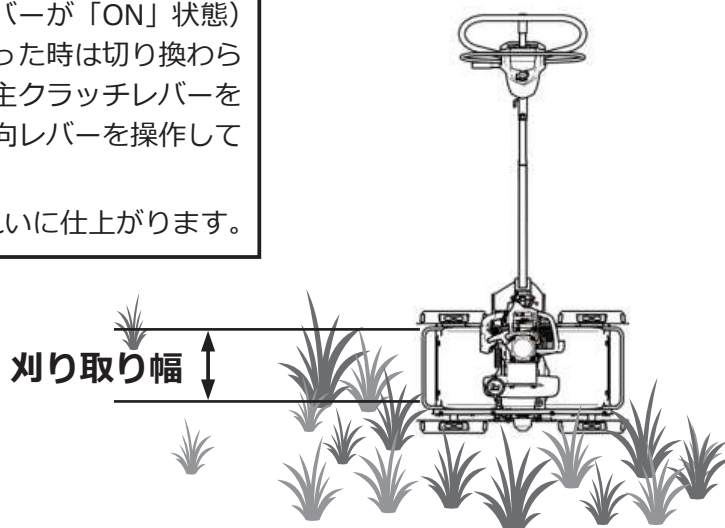
お願い

- つる草が巻きついたりその他異物が絡まった場合は、すぐにエンジンを止めそれらを取り除いてください。
- 条件(草丈、草の密集ぐあいなど)によって草刈り作業時にエンジン回転数が落ち、車輪が回っているのにほとんど走行していない状態になる場合があります。このような状態を続けると、エンジンの遠心クラッチが焼き付くおそれがありますので、刈取り幅を狭くして作業してください。
- 水田や水路に車輪を入れて作業すると、チェーンケースのすきまから泥水が浸入してチェーンが固着し、本製品が破損する場合があります。車輪は水につけないで作業してください。



お知らせ

- 進行方向の切り換えは走行時（主クラッチレバーが「ON」状態）でも行えます。ただし、車輪に高負荷がかかった時は切り換わらないこともあります。切り換えできない時は主クラッチレバーを離し、本製品を左右に動かしてから、進行方向レバーを操作してください。
- 刈り取り幅を狭くすると刈り残しもなく、きれいに仕上がります。



1) 法面での作業のしかた

作業者は必ず本製品の上（山）側に立ち作業してください。ハンドル位置は本製品の進行方向に対して少し前よりに合わせて、本製品の進行方向がコントロールしやすく楽に草刈り作業ができます。

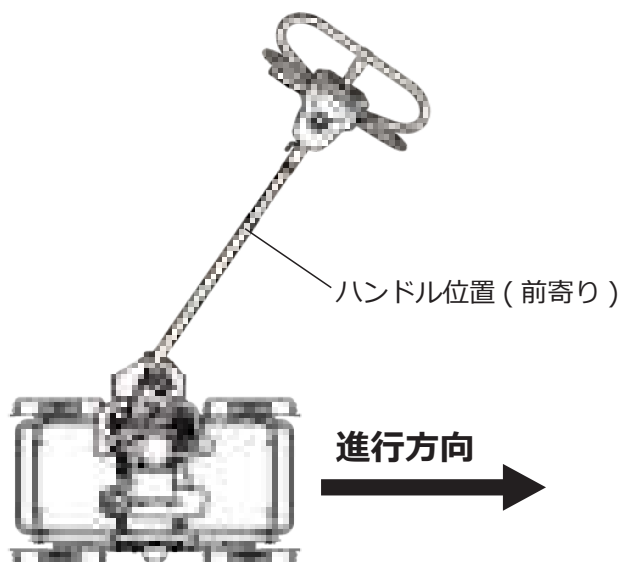
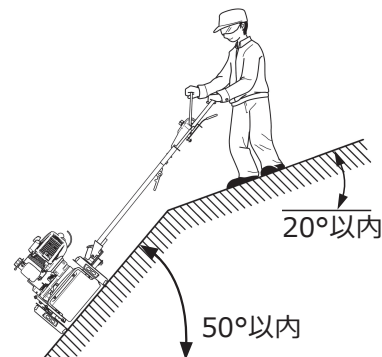
！ 注意



- 必ず滑り止めのついた安全靴を履いてください。
転倒してけがをするおそれがあります。

お知らせ

- ハンドルを進行方向に対してすこし前よりにすると、本製品の進行方向のコントロールが行いやすくなります。
また、急な法面（20°～50°）では、作業者は平坦地に立ち、本製品のみを法面に入れて作業してください。
急な法面（20°～50°）では、本製品を平行に走行させても徐々に下向きに進行します。本製品の進行方向を少し上（山）側に向けて作業するとほぼ平行に走行し、楽に草刈り作業ができます。



2) 溝越えのしかた



警告



- 溝越えするときは、刈刃クラッチレバーを必ず「切」にしてください。
回転する刃が溝に引っ掛かり重傷を負ったり、本製品が破損するおそれがあります。

- ① 作業者が進行方向の後側に立つように、ハンドル位置を調整してください。
- ② ハンドルを押し下げて前側の車輪を浮かせて進んでください。

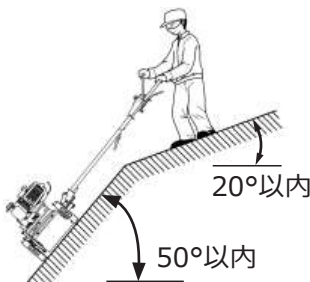


- ③ 前側の車輪が溝を越えたあと、ハンドルを持ち上げ、後側の車輪を浮かせて進んでください。



(3) 草刈り作業

 危険	
	■ 作業者は 20°以上の斜面に立たないでください。 足を滑らせ、回転する刈刃に巻き込まれるおそれがあります。 ■ 作業中には、刈刃や回転部に手足や体を近づけないでください。 回転する刈刃に巻き込まれるおそれがあります。
	■ 傾斜面での作業は、必ず足場をしっかりと確保し、本製品の上(山)側に立って行なってください。 下(谷)側での作業は、緊急時に回転する刈刃に巻き込まれるおそれがあります。 ■ 本製品の周囲に人を近づけないでください。 飛散物が当たりけがをするおそれがあります。

 警告	
	■ 周りに人や動物がいないことを十分に確認してください。万一、すぐ近くに人や動物がいることに気が付いたときは、まずエンジンを停止して、刈刃の回転が止まるのを確認してから対応してください。 周囲の人や動物が回転する刈刃に巻き込まれて、死亡または重傷事故に至ったり、飛散物に当たってけがをするおそれがあります。 ■ 飛散防護カバーを取り外すことはしないでください。 飛散してきた石などで、重傷に至るおそれがあります。 ■ 安定した作業姿勢の保持が困難な 50°以上の急傾斜地では滑りやすく危険なため、本製品を使用しないでください。また作業者も、20°以上の傾斜地に立たないでください。 足を滑らせてけがに至るおそれがあります。 ■ 落下するおそれがあるので、50°以上の斜面では作業は行なわないでください。
	
	■ 降雨時または、雨上がり後や露の多いときは滑りやすいので、地面がかわいてから作業してください。 ■ 夜間作業はしないでください。 ■ 斜面を上りまたは下りで走行中に進行方向レバーを中立位置に入れないでください。 ブレーキが利かず暴走するおそれがあります。 ■ 刈刃の回転中はカバー内側近くまで刈刃が迫っておりますので、草を足でカバー内に押し込むようなことはしないでください。 足指を切断するなど、重傷に至るおそれがあります。
	■ 本製品のエンジン排気方向 1m 以内には、枯草、おがくず、衣類・布類、木造の建屋・壁などの可燃物、また人や動物に近づけないでください。いかなるものも、排気ガスをさえずらないようにしてください。 排気ガスは高温のためやけど、変色、焼損などの他に火災に至るおそれがあります。また、マフラの排気口がふさがれると、排気ガスの高温でエンジンの損傷に至るおそれがあります。 ■ 枯草など可燃物の近くに本製品を停めないでください。 運転中、アイドリング中のエンジンは高温です。またエンジン停止後しばらくの間も、エンジンは高温です。火災に至るおそれがあります。 ■ 草刈り作業を中断して本製品から離れるときは、必ずエンジンを停止してください。 停止していないと、本製品が振動で動き出し事故に至るおそれがあります。

! 警告

!	■ 近くに子供がいる場合は、いたずらなどに注意してください。 エンジンが始動したまま本製品を置いて目を離すと、おもちゃと間違え大人の真似をして子供が重傷に至るおそれがあります。 ■ 作業中の作業者を呼ぶときは、離れた位置から合図してください。笛などを使用すると効果的です。 作業中に作業者が気付きにくい方向、特に後方から接近することは非常に危険です。作業者が接近する人に気付かず、エンジンが回転している本製品を接近させると、接近した人を死傷させるおそれがあります。 ■ 安全のため、必ず必要な保護具を装着して作業を行ってください。 刈刃との接触や刈刃からの飛散物、本製品からの作業音により、視覚障害、聴覚障害、けがなどの重傷に至るおそれがあります。 ■ 作業を中断するときは必ずエンジンを停止してください。 草刈り作業を中断した際、アイドリング中にエンジン回転速度が上がると刈刃が回り出すことがあります。意図しない刈刃への接触や飛散物により事故に至るおそれがあります。 ■ 刈刃にひもや草がからんだ場合は、エンジンを停止してから除去してください。 停止していないと、ひもなどを除去した瞬間に刈刃が回りだし、重傷に至るおそれがあります。 ■ 木などに刈刃がはさまった場合は、エンジンを停止してから木などを押して、刈刃がはさまっている部分を広げて外してください。 エンジン回転中に無理に引き離すと、外れた瞬間に刈刃が回り出し重傷に至るおそれがあります。 ■ 刈刃が木などへの食い込みから外れたら、エンジンを始動する前に刈刃を点検してください。損傷のある場合は交換してください。 損傷がある刈刃を使用すると、重傷に至るおそれがあります。 ■ 刈刃が石などの硬いものに衝突したときは、直ちにエンジンを停止して刈刃を点検し、損傷のある場合は交換してください。 損傷がある刈刃を使用すると、重傷に至るおそれがあります。 ■ 常に足元をしっかりとらせ、バランスを保つようにしてください。 転落や滑落により重傷に至るおそれがあります。
---	--

! 注意

⊘	■ マフラの排気口をふさがないでください。 排気ガスによりエンジンの損傷に至るおそれがあります。
!	■ エンジンを始動したり、各クラッチを入れるときは、共同作業者に合図して、安全を確認してください。 ■ 作業を終えてシートを本製品にかけるときは、火災の原因になることがありますので、エンジン、マフラが十分冷えてからにしてください。 ■ 障害物に注意し、刈刃が当たらないようにしてください。 飛散物によりけがに至るおそれや、刈刃の損傷に至るおそれがあります。

(4) 作業後

1) 作業終了時

- ① 主クラッチレバーから手を離してください。
- ② 刈刃クラッチレバーを「切」の位置にしてください。
- ③ 1 分間程度冷却運転をしてください。
- ④ エンジンを停止してください。
- ⑤ 保護（耐切創）手袋を装着して、刈刃部の掃除、損傷有無の点検をしてください。異常のある刈刃は本製品から外して廃棄処分してください。車輪部分やその他の場所も刈草や土砂などを掃除してください。圧縮空気を吹き付けて掃除するのも良い方法です。
- ⑥ エアクリーナの清掃を行ってください(44 ページの「(5) エアクリーナの清掃」を参照してください)。
- ⑦ エンジンが完全に冷えた後、ポンプなどを用いて混合燃料を燃料タンクから燃料缶に排出してください。
- ⑧ プライマポンプを数回押して、キャブレタ内の混合燃料を燃料タンクに戻してください。
- ⑨ もう一度、燃料タンクの混合燃料を燃料缶に排出してください。

■ エンジンが始動しない場合

そのまま問題ありません。2) 保管へ進んでください。

■ エンジンが始動する場合

エンジンの中に残っている混合燃料をなくすために、エンジンを始動した後、自然に停止するまで運転してください。



警告



- 混合燃料を燃料缶に排出するときは、こぼさないように注意してください。こぼした場合はきれいに拭き取ってください。

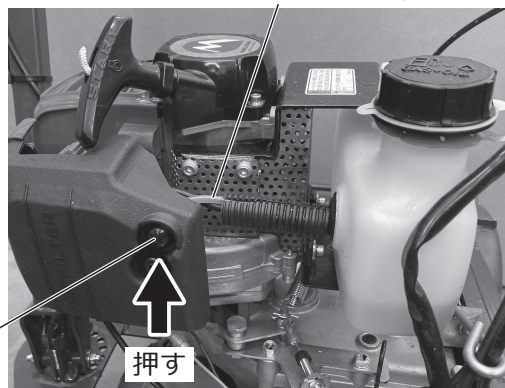
こぼれた混合燃料に引火して火災に至るおそれがあります。

燃料タンクから



キャブレタから

オーバーフローパイプ
(黄色半透明)



プライマポンプ

2) 保管

エンジンが完全に冷えてから保管してください。

お願い

- 本製品を長期間（1 か月以上）保管する場合は、53 ページの「10. 長期保管」を参照してください。

8. 点検・整備

お願い

- 本製品を安全にご使用いただき、また長持ちさせるために定期的に点検を行ってください。
- 安全にご使用いただくために年に1回、ご購入の販売店にて定期点検を行ってください。



警告



- 取扱説明書に記載されていない整備・調整は、ご購入の販売店に依頼してください。
正しい整備ができず、事故に至るおそれがあります。
- 点検で不具合がある、不調の場合は整備を行い正常な状態になってから使用してください。
必要な処置をしないと、本製品の破損や部品脱落などにより死亡事故や重傷に至るおそれがあります。
- 部品を交換する場合は、必ずメーカー指定の純正部品をご使用ください。
間に合わせのものや粗悪なものを使用すると、早期破損やゆりみ、異常振動などにより、事故やけが、本製品の故障に至るおそれがあります。



注意



- 作業に関係がない人を近づけないでください。
刈刃に接触するなどにより、けがに至るおそれがあります。



- 本製品の点検・整備を行うときは、周囲を整理してから行ってください。
点検整備が適切に行えず、本製品の不具合の発生に至るおそれがあります。

■ 定期点検

下記の使用時間を目安に定期的に点検を実施してください。

お願い

- ご自身での点検に不安のある方は、ご購入の販売店にご相談ください。

点検項目		使用時間	参照タイトル
エンジン	エアクリーナエレメントの清掃	作業ごと	44 ページの「(5) エアクリーナの清掃」
	点火プラグの点検清掃、調整	25 時間ごと	45 ページの「(7) 点火プラグの清掃・調整」
	燃料フィルタの清掃	25 時間ごと	47 ページの「(10) 燃料フィルタ・タンクの清掃」
	燃料タンク内の清掃	25 時間ごと	47 ページの「(10) 燃料フィルタ・タンクの清掃」
ミッションケース	オイル交換	50 時間ごと	48 ページの「(11) ミッションオイルの点検・交換」

■ 整備

下記の作業手順に従って点検を実施してください。

お願い

- この取扱説明書に記載された整備であっても専門知識や技能が必要となる場合があります。不安のある方はご購入の販売店にご相談ください。
- 整備をする前に洗車をすることをおすすめします。特に「(3) 駆動チェーンの点検・調整」の項目を行う際は、チェーンケース内に土砂が入るのを防ぐために事前に洗車をしてください。

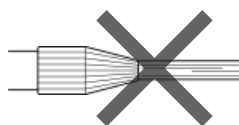
⚠ 注 意

高圧洗車機を使う場合、以下の項目を守ってください。

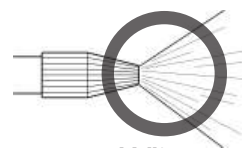
使い方を誤ると周囲の人をけがさせたり本製品を損傷させることがあります。



- 2m 以内に洗車ノズルを近づけないでください。
- ノズルを操作して高圧水を「拡散」状態にしてください。
- 「直射」状態は使わないでください。
- エンジン、エンジンスイッチなどは、高圧水を当てないでください。



直射



拡散

⚠ 警 告



- 点検・調整・交換をするときは、必ずエンジンを止めてから行ってください。回転する刈刃で重傷を負うおそれがあります。

(1) 刈刃の交換

⚠ 危 険

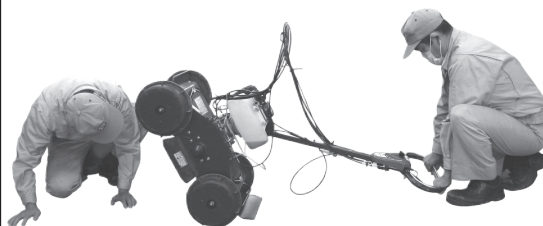


- 各部品は組み付け順序を間違えないよう、確実に組み付けてください。誤った方法で組み付けると、作業中に刈刃が外れ、死亡事故に至ります。

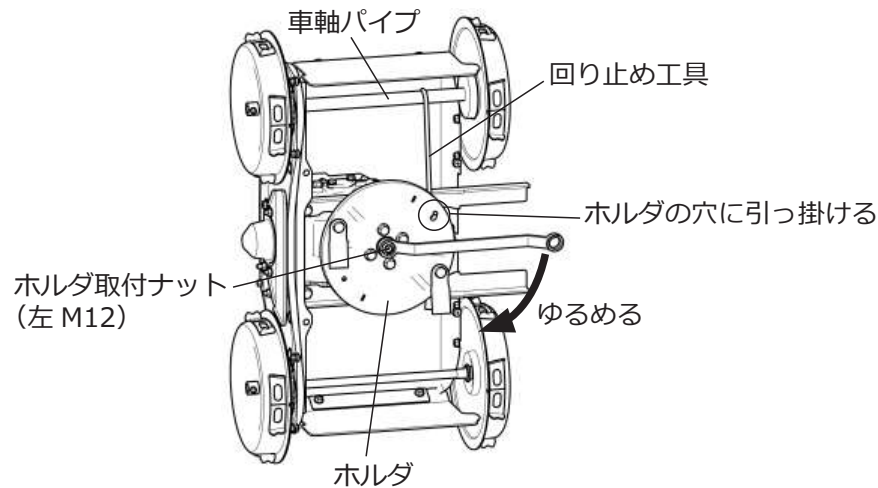
⚠ 注 意



- 手袋を着用し、刃先に注意しながら作業してください。
- 交換部品は必ずメーカー指定の純正品をお使いください。
- 刈刃の交換作業は一人で行わず、必ず二人で行ってください。ハンドルをしっかりとささえてもらいながら作業してください。



- ① 付属の回り止め工具を、車軸パイプとホルダ穴部にかけてホルダを固定し、ホルダ取付ナットをゆるめてホルダを外してください。ホルダが固着して外れない場合は、ご購入の販売店にご依頼ください。



お知らせ

- ホルダ取付ナットは左ネジ (反時計回りで締まる) になっています。

- ② 刈刃ナットをゆるめて、刈刃ボルトを下側から抜いて刈刃を外します。
- ③ 新しい刈刃、刈刃ボルト、座金、刈刃ナットは図 1 のように組み付けてください。
- ④ このとき、上下の刈刃が手で軽く回転することを確認してください。
- ⑤ 刈刃ナットを $25 \sim 30 \text{ N} \cdot \text{m}$ で締め付けてください。
(例：長さ 25cm のスパナで 10～12kgf 程度)
- ⑥ 図 2 のようにホルダを刈刃軸に取り付けてください。

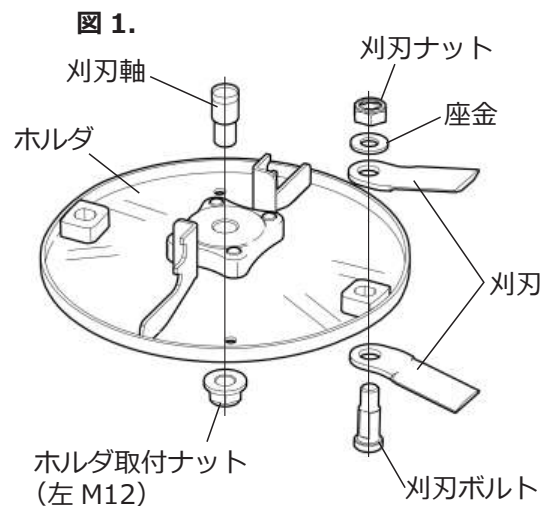
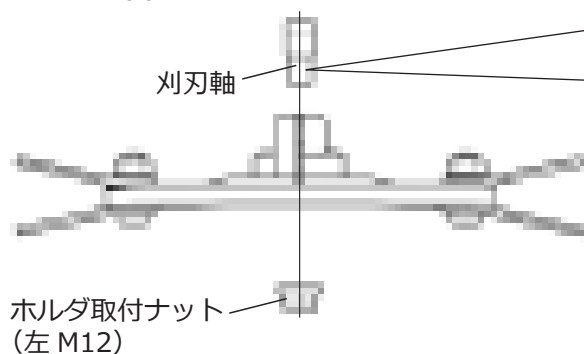


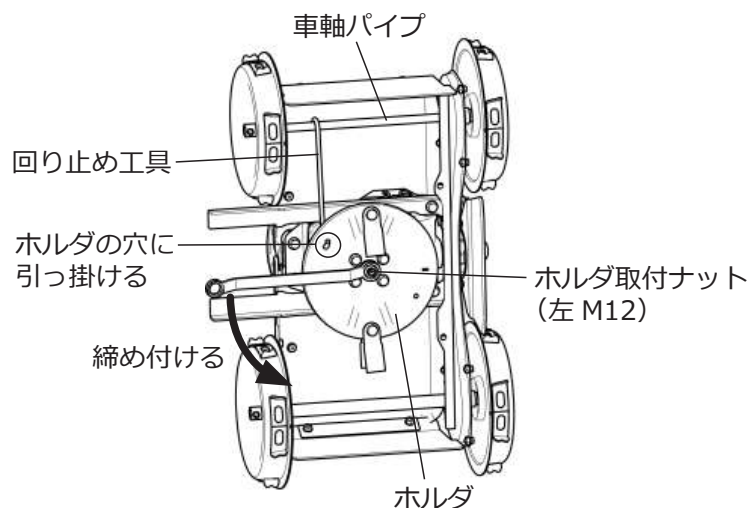
図 2.



お願い

- ホルダを取り付ける際は、刈刃軸のスプライン部 (タテ溝部) にグリスを微量 (約 0.1g) 塗布してください。

ホルダ取付ナットを締め付ける際は、車軸パイプとホルダ穴部に付属の回り止め工具をかけてホルダを固定し、40～45N・m のトルクで締め付けてください。長さ 25cm のメガネレンチを使用した場合、締め付け荷重は 16.5～18.5kgf になります。



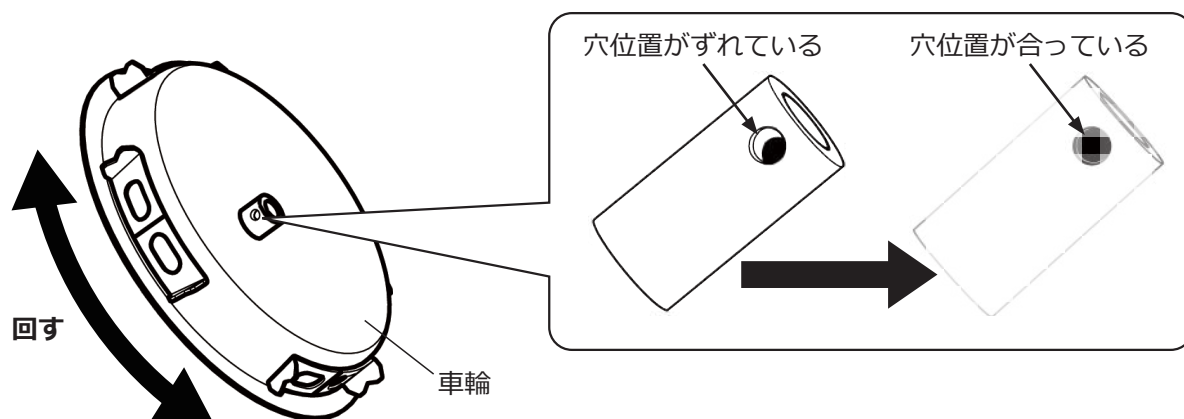
お願い

- ホルダ取付ナットを締め付ける際は、トルクレンチもしくは柄の長いソケットレンチ、メガネレンチなどを使用してください。
- ホルダを取り付ける際は、既定のトルクでしっかりと締め付けてください。締め付けがゆるいと作業中にホルダが脱落し、故障の原因になります。
- ホルダ取付ナットおよび刈刃ナットを締め込んでいくと途中で抵抗を感じますが、ガタつきがある間はナットは締まっていません。ガタつきがないように、既定のトルクでしっかりと締め付けてください。

(2) 車輪駆動ボルトの交換

車輪駆動ボルトが切断・折損などした場合は下記の要領で交換してください。

- ① 車輪を手で回し、車軸と車輪の穴位置を合わせてください。



- ② ピン抜きなどで穴に残っているボルトを抜いてください。
③ 新しいボルトを穴に入れ、抜け止めナットを組み付けてください。



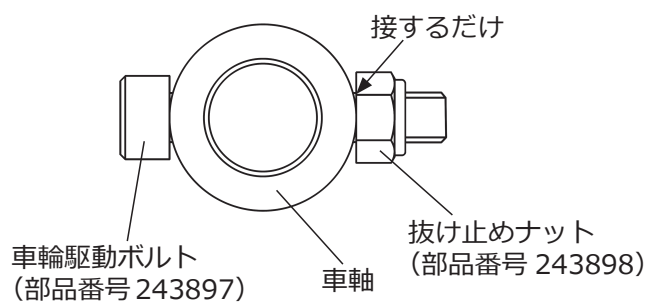
お願い

- 抜け止めナットの締め付けは、座面が軽く接する程度で十分です。
抜け止めナットを強く締め過ぎると、車輪駆動ボルトが切断しやすくなります。
- 車輪駆動ボルトを交換する際は、抜け止めナットも必ず同時に交換してください。
- 車輪駆動ボルトと抜け止めナットは、必ずメーカー指定の純正品をお使いください。

抜け止めナットの正しい向き



抜け止めナットの締め込み



お知らせ

- 車輪駆動ボルトには車輪に高負荷が掛かると折れて、本製品の損傷を防ぐ役割があります。

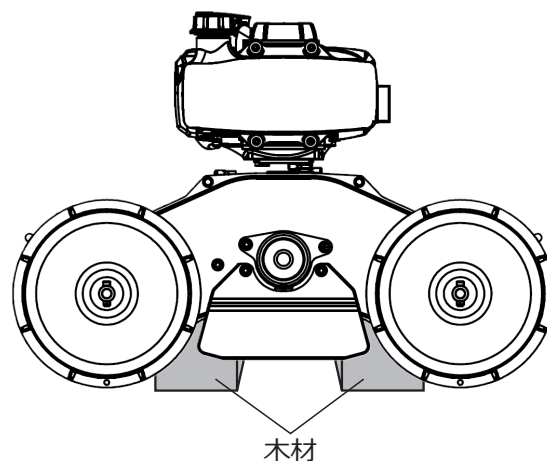
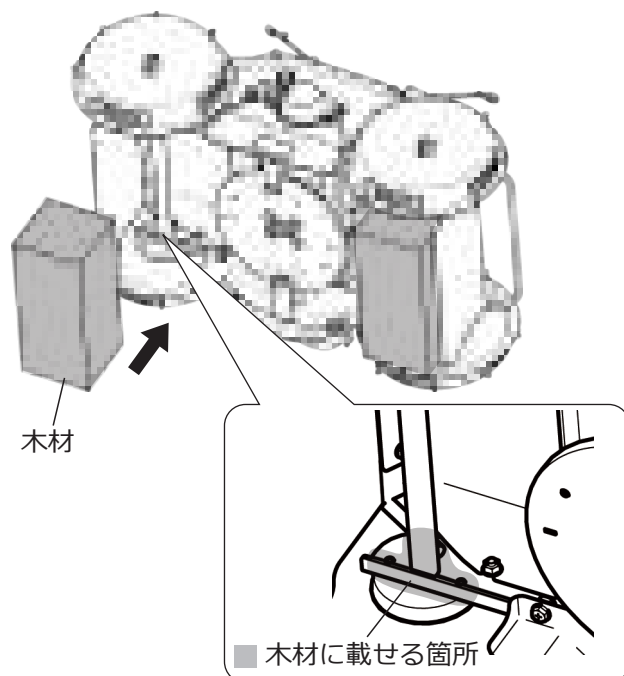
(3) 駆動チェーンの点検・調整

お願い

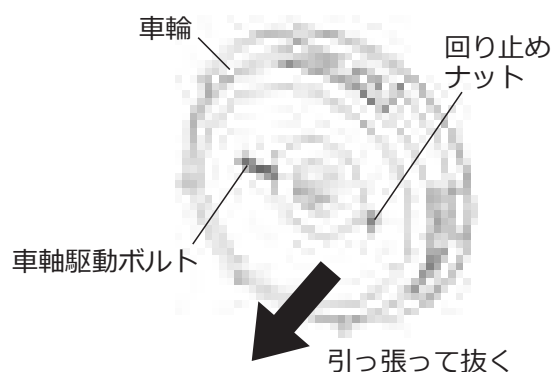
- 105 ～ 120mm 角で長さ 21 ～ 25cm 程度の木材などを用いて、地面から車輪が浮いた状態でメンテナンスを行ってください。

1) 点検

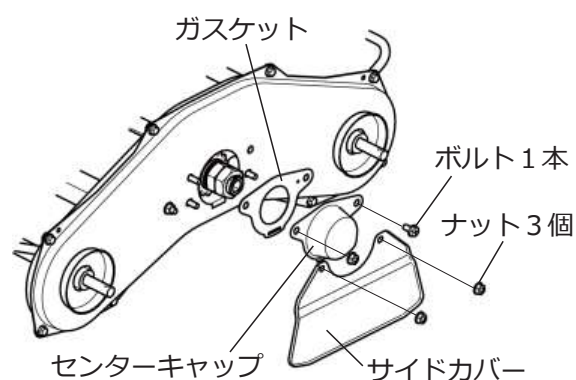
木材に載せる位置は図の通りです。



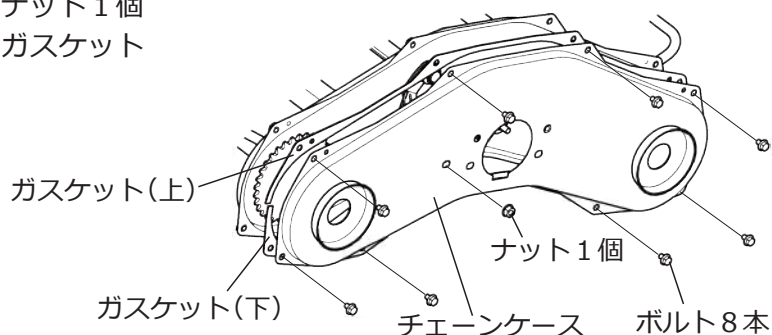
- ① チェーンケース側の車輪 2 つの、回り止めナットと車輪駆動ボルトを外し、2 つの車輪を外してください。



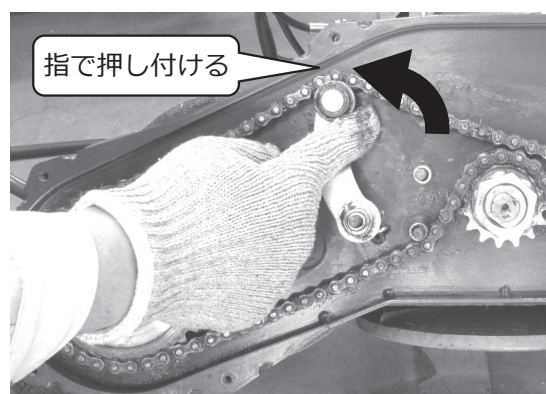
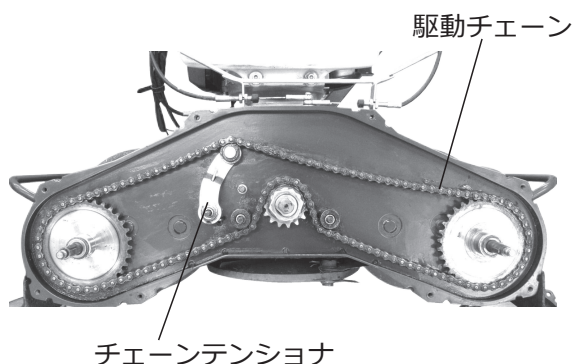
- ② ボルトとナットを取り外し、センターキャップとガスケット、サイドカバーを外してください。



- ③ チェーンケース周辺の M5 ボルト 8 本とナット 1 個をゆるめて取り外し、チェーンケースとガスケット 2 枚を取り外してください。

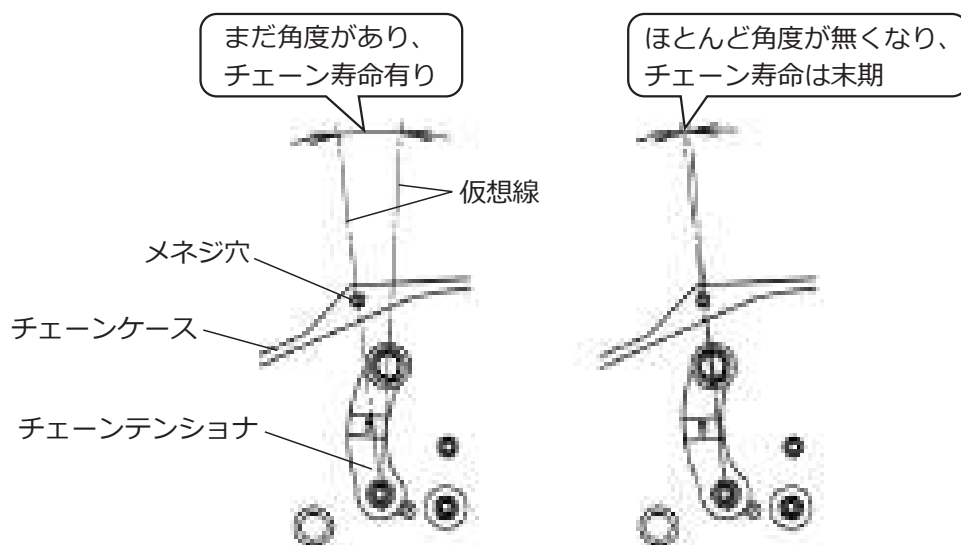


- ④ 進行方向レバーを中立位置にして、図のように指でチェーンテンショナ部を押し付け、下記⑤の通りに駆動チェーンの伸びを確認してください。



- ⑤ 運転時間が経過すると駆動チェーンは伸びてきますが、図のようにチェーンケースのメネジ穴とチェーンテンショナの仮想線との角度もそれに伴い小さくなってきます。

上記④のように指で押し付けて仮想線が重なるようになったら、駆動チェーンを交換してください。



お願い

- 駆動チェーンの交換はご購入の販売店に依頼してください。

2) 清掃

チェーンケース内部のゴミを取り除いてください。

3) グリス補給

駆動チェーンにグリスを塗布してください。

お願い

- 駆動チェーン全体にグリスを塗布してください。

4) 組立

分解時と逆の手順で組み立ててください。ガスケットの両面を確認し、損傷があれば交換してください。

又、車輪取付時には新品の車輪駆動ボルトと抜け止めナットに交換してください。

車輪駆動ボルト (部品番号 243897)

抜け止めナット (部品番号 243898)

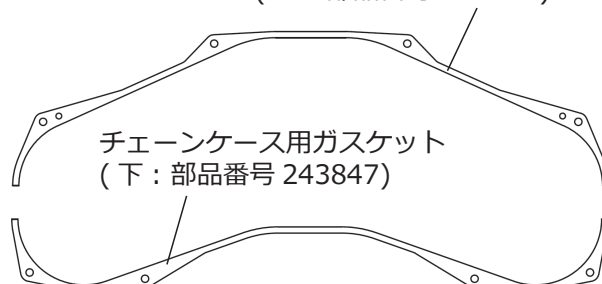
センターキャップ用ガスケット
(部品番号 243858)

小穴が向かって右側に
来るように組み付ける



チェーンケース用ガスケット
(上: 部品番号 243846)

チェーンケース用ガスケット
(下: 部品番号 243847)



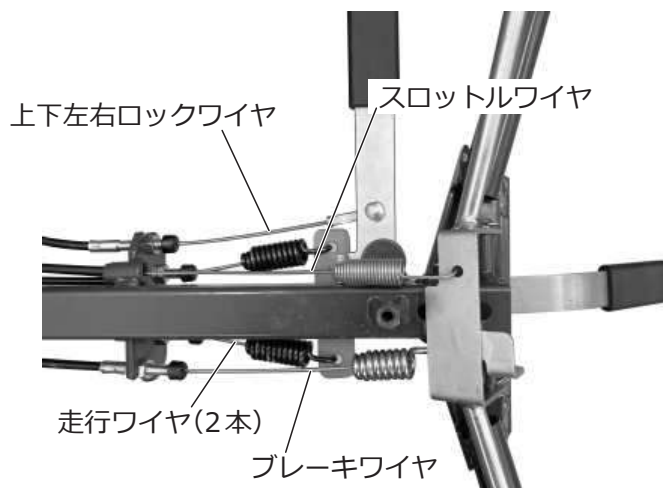
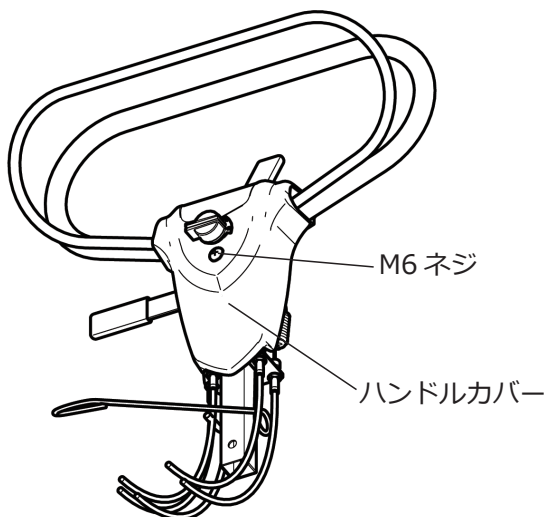
(4) 各ワイヤの点検・調整

！ 注 意



- 各ワイヤの調整後は、ロックナットを確実に締め付けてください。
破損のおそれがあります。

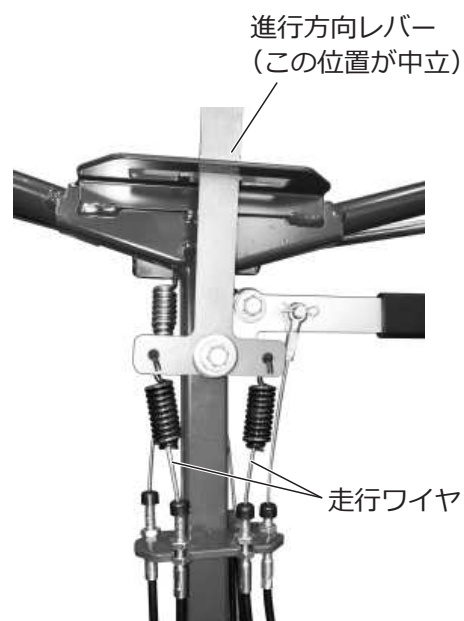
各ワイヤを調整する際は、M6 のネジを外してからハンドルカバーを外してください。



1) 走行ワイヤの調整

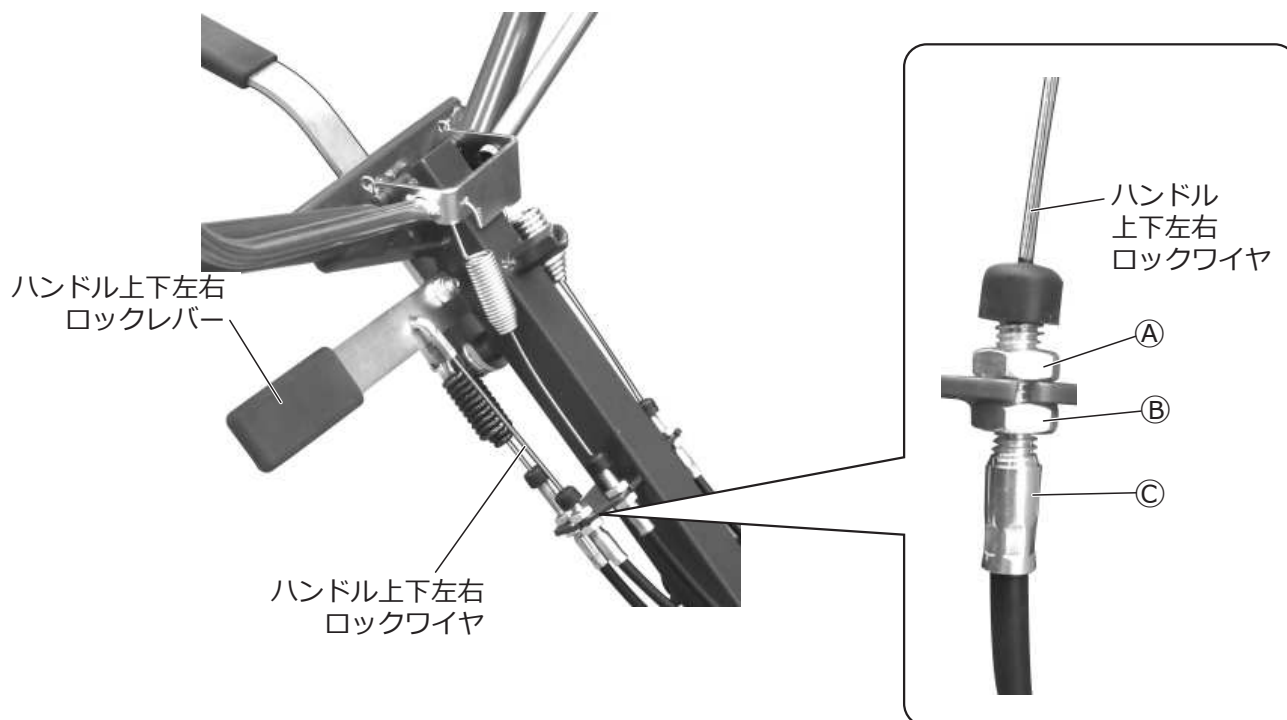
- 走行時、車輪が時々停止することがある。
 - 進行方向レバーを切換えても機体の進行方向が変わらない。
 - 進行方向レバーが中立位置なのに、主クラッチレバーを握り「ON」にすると走行してしまう。
- このようなときには、ワイヤを調整してください。

- ① 進行方向レバーを中立位置にしたとき、走行ワイヤに遊びがない様にワイヤの張りを調整してください。このとき、左右のワイヤは同程度に張る様にしてください。
- ② 進行方向レバーを走行位置に入れ、車輪を回転させロックさせてから、レバーを中立位置に戻し、車輪が1回転以上空回りすることを確認してください。
- ③ ②で進行方向レバーを中立位置に戻しても、車輪が空回りしない場合は、ゆるみ側のワイヤを少し引っ張ってください。
- ④ どちらの走行位置でも②が確認できれば、作業終了です。



2) ハンドル上下左右ロックワイヤの調整

- 作業中にハンドルロックが外れて動いてしまう場合 → I
 - ハンドル上下左右ロックレバーを握っているのにハンドルロックが外れず、ハンドルが動かない場合 → II
- I : ⑥のナットをゆるめてから、④のナットを締め付け、③のアジャスタを上方向へ移動させてください。
(上下左右ロックワイヤをゆるめてください。)
- II : ④のナットをゆるめてから、⑥のナットを締め付け、③のアジャスタを下方向へ移動させてください。
(上下左右ロックワイヤを張ってください。)

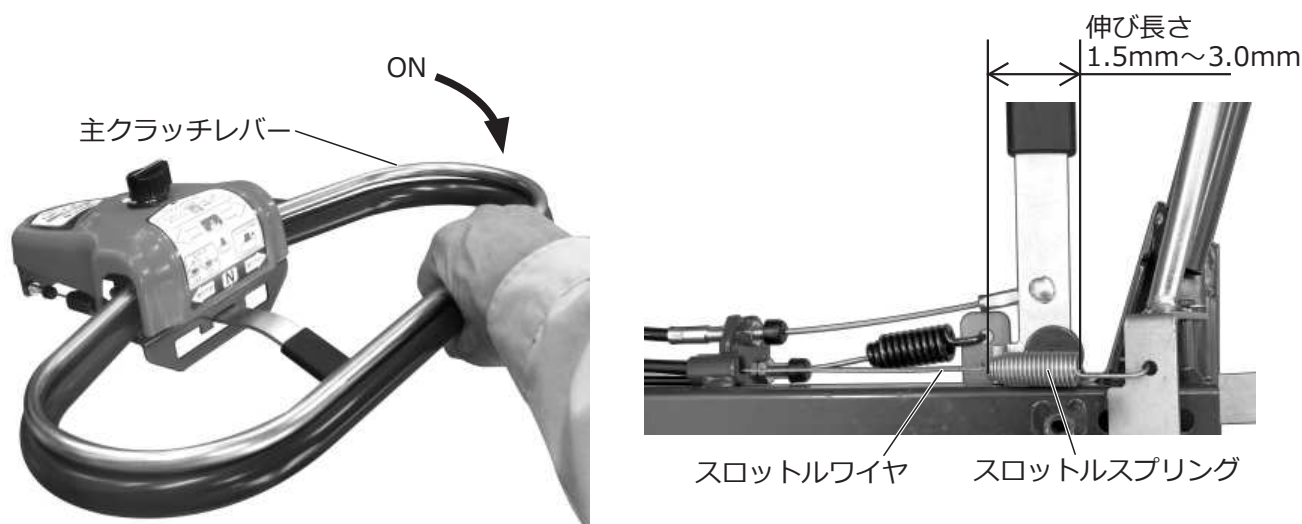


3) スロットルワイヤの調整

お願い

- 主クラッチレバーが「OFF」の位置ではスロットルワイヤに遊びを設けてあります。
- 主クラッチレバーを「ON」にしても、スロットルスプリングに伸びがなくエンジン回転数が上がらない場合は、ワイヤを調整してください。

主クラッチレバーが「ON」の位置で、スロットルスプリングの全長が 1.5 ～ 3.0mm 伸びるようにスロットルワイヤを調整してください。

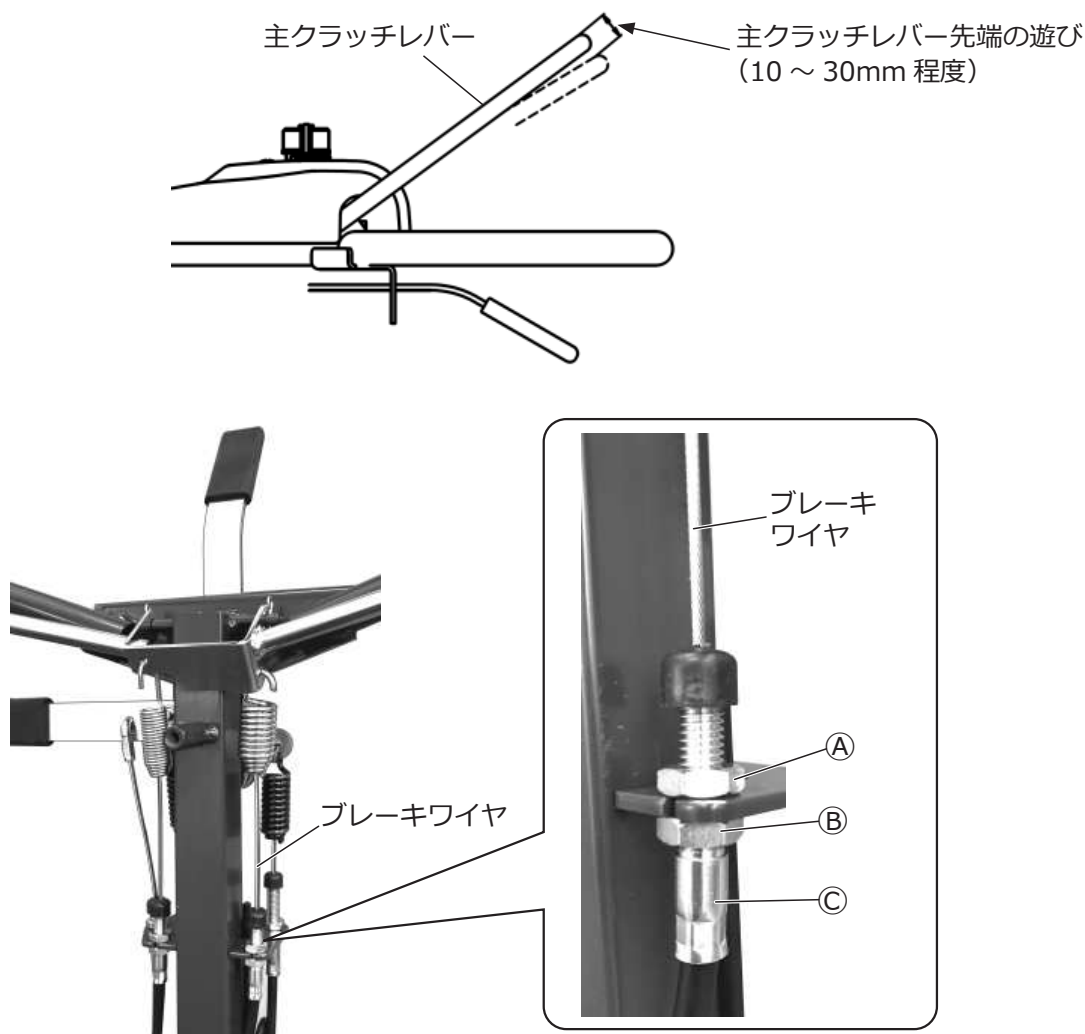


4) ブレーキワイヤの調整

お願い

- 主クラッチレバーが「OFF」の位置ではブレーキワイヤに遊びを設けてあります。
- ブレーキワイヤが調整不良の状態で使用を続けると、本製品の故障につながるおそれがあります。

主クラッチレバーが「OFF」でフリー状態のとき、主クラッチレバー先端の遊びが 10 ～ 30mm 程度となるようにブレーキワイヤを調整してください。



遊びが大きすぎる場合：①のナットをゆるめてから、②のナットを締め付け、③のアジャスタを下方向へ移動させてください。(ブレーキワイヤを張ってください。)

遊びが小さすぎる場合：②のナットをゆるめてから、①のナットを締め付け、③のアジャスタを上方向へ移動させてください。(ブレーキワイヤをゆるめてください。)



警告



- (5) 以降の点検・整備は必ず点火プラグキャップを外してから行ってください。
突然のエンジンの始動により、重傷事故に至るおそれがあります。



注意



- (5) 以降の点検・整備は必ずエンジンを停止して、本製品が冷えてから行ってください。
冷える前に行うと、やけどに至るおそれがあります。

(5) エアクリーナの清掃

1) 清掃の間隔

エアクリーナのエレメントが汚れていると、エンジンの出力低下や始動不良が起こります。1日の作業終了後、清掃してください。

お願い

- 砂やほこりの多い作業現場では、短時間でエレメントが目詰まりします。**1日に1回以上の清掃が必要場合があります。**

! 危険



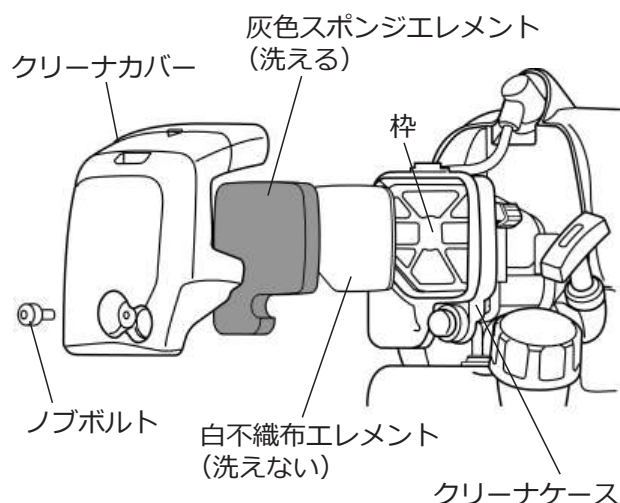
- **混合燃料は引火性の高い燃料です。取り扱いには必ず火気厳禁を守ってください。**
守らないと火災に至ります。

2) 清掃の前に

クリーナカバー周辺の砂や刈草などを除去し、クリーナケース内に入らないようにしてください。

3) 清掃

- ① 付属の六角棒スパナ(3mm)とポリ袋、オイル受け皿を用意してください。
- ② 六角棒スパナを使用し、ノブボルトをゆるめ、クリーナカバーを取り外してください。
- ③ エレメントに付着しているゴミなどがクリーナケース内に残らないように注意しながら、エレメントを取り出してください。
- ④ 灰色スポンジエレメントのみ混合燃料で洗浄してください。
白不織布エレメントは洗浄不可ですので、叩いたり、圧縮空気でゴミを吹き飛ばしてください。
- ⑤ 灰色スポンジエレメントをよくしぼってから2サイクルエンジンオイル約10ccと共にポリ袋に入れ、ポリ袋を揉んでエレメント全体にオイルをしみ込ませてください。その後、ポリ袋をしっかり握り、オイル受け皿に余分なオイルを排出してください。
- ⑥ クリーナケースやクリーナカバー内部のゴミを拭き取ってください。エレメントを2枚とも元の位置に取り付けてください。
- ⑦ クリーナカバーを元の位置に取り付けて、ノブボルトを六角棒スパナでしっかりと締め付けてください。



お願い

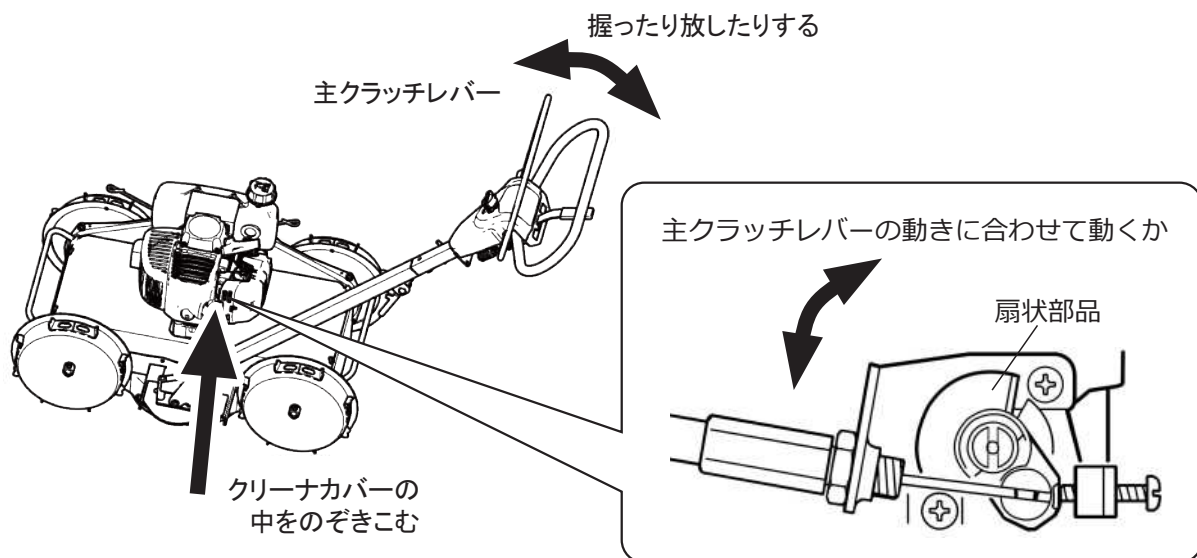
- 洗浄して残った混合燃料は、**15 ページの「(5) ガソリンおよび混合燃料の廃棄」**に従って処分してください。

! 注意



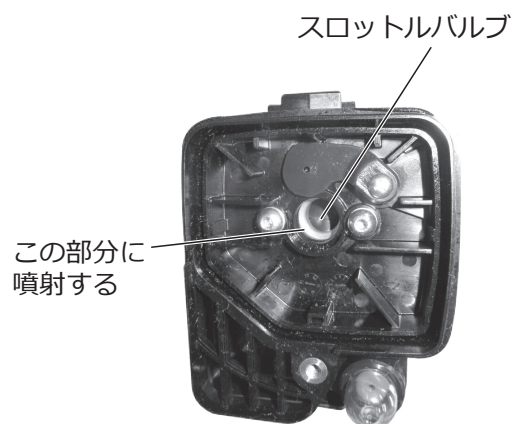
- **エアクリーナやエレメントのない状態で草刈り作業をしないでください。**
エンジンの故障に至るおそれがあります。

(6) スロットルバルブの清掃



① 上図のように扇状部品の動きを確認してください。動きが悪い場合は別紙の組立説明書3ページのワイヤ類の取り回しを確認し、異常がなければスロットルバルブの清掃を行ってください。

② クリーナカバーを外し、エレメント2枚と枠を取り外した後(44ページの「(5) エアクリーナの清掃」を参照してください)、図の部分に市販のキャブレタークリーナを噴射してください。
その際に主クラッチレバーを握ったり放したりしながら噴射してください。



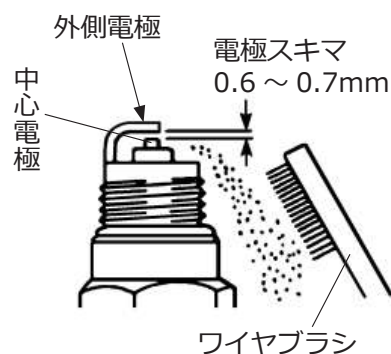
(7) 点火プラグの清掃・調整

1) 点検の間隔

点火プラグの点検は、25 時間使用することに行ってください。

2) 清掃・調整

- ① 付属のコンビボックススパナを用意してください。
- ② コンビボックススパナを使用し、点火プラグを外してください。
- ③ 電極部にカーボンなどが堆積している場合はワイヤブラシなどで清掃してください。
- ④ 中心電極や外側電極が焼けて丸く減っている場合は、点火プラグを交換してください。
- ⑤ 点火プラグの電極スキマは、0.6mm～0.7mm(ハガキ3枚分程度)が正常です。広すぎたり狭すぎたりしている場合は調整してください。



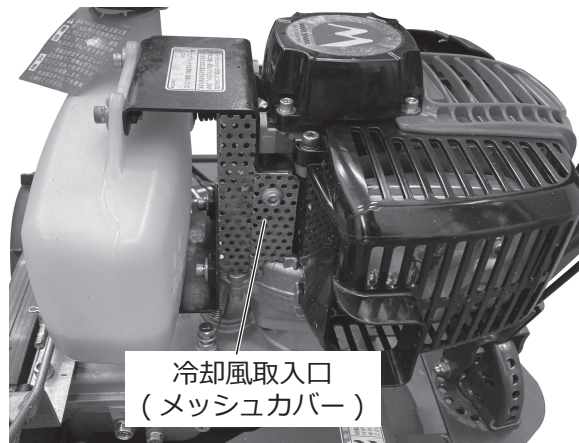
(8) 冷却風通路の清掃

⚠ 注意

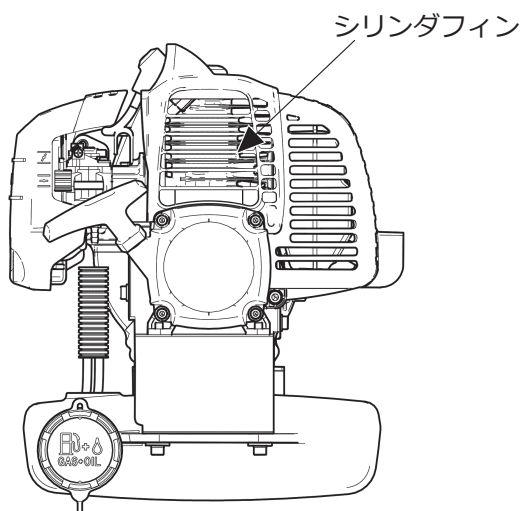


- 作業開始前に、冷却風通路にゴミが詰まっているか点検してください。
冷却風通路にゴミが詰まっていると、エンジンの冷却不良が発生し、オーバーヒートに至るおそれがあります。

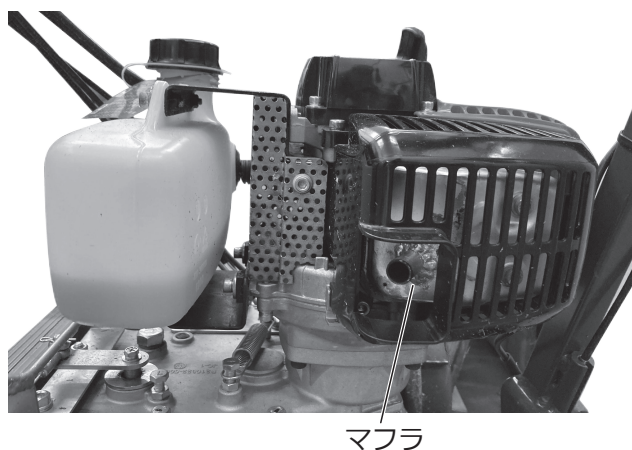
- 冷却風取入口（メッシュカバー）に付着したゴミを取り除いてください。



- シリンダフィン間のゴミを針金などを用いて取り除いてください。



- マフラ周辺のゴミを取り除いてください。



(9) マフラの点検・整備

マフラがカーボンで汚れているときや排気口にカーボンが付着しているときに、エンジンの出力低下が起きます。

お願い

- マフラ内部、シリンダ、ピストンのカーボン除去作業には、専門の技術および道具が必要です。ご購入の販売店に点検・整備を依頼してください。

(10) 燃料フィルタ・タンクの清掃



危険



- 混合燃料は引火性の高い燃料です。取り扱いは必ず火気厳禁を守ってください。守らないと火災に至ります。



注意



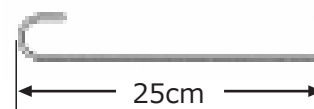
- 燃料タンクと燃料フィルタの清掃には混合燃料を使用してください。水洗いなどをするとエンジンの故障に至るおそれがあります。

1) 清掃の間隔

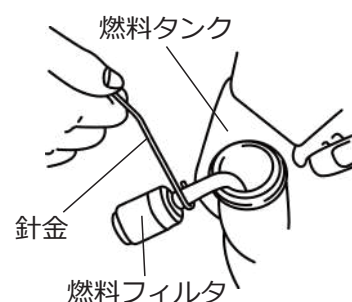
燃料フィルタが詰まると、始動不良や加速不足の原因になります。
25 時間ごとに取り出して清掃してください。

2) 清掃

- ① 右図のように曲げた針金を用意してください。
- ② 燃料タンクキャップを外してください。
- ③ 用意した針金を使用して燃料フィルタを取り出し、ゴミを取り除き混合燃料で洗浄してください。汚れがひどいときは、燃料フィルタを交換してください。
- ④ 燃料タンク内にゴミがあると燃料フィルタが詰まりやすくなります。ゴミを取り除き、燃料タンク内も混合燃料で洗浄してください。
- ⑤ 燃料フィルタの清掃、交換の後は、燃料フィルタが燃料タンク内で自由に動くように、燃料タンク内に押し込んでください。
- ⑥ 燃料タンクキャップを取り付け、しっかりと締め付けてください。



※市販の針金を図のように曲げてご使用ください。



お願い

- 洗浄して残った混合燃料は、15 ページの「(5) ガソリンおよび混合燃料の廃棄」に従って処分してください。

(11) ミッションオイルの点検・交換

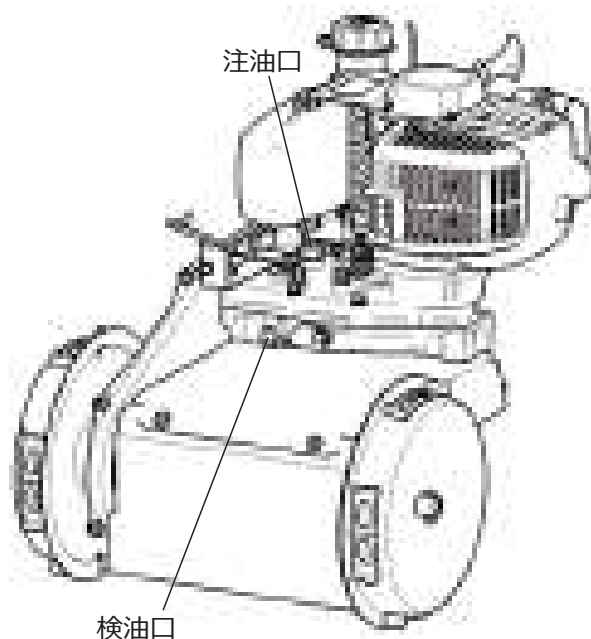
ミッションオイルの量が多すぎるとミッション内部の圧力が上昇し、故障の原因となる場合があります。

1) 点検と補給

検油栓を外して検油口からオイルがにじみ出てくれば適正量です。量が多い場合は検油口から排油してください。不足の場合は給油口より補給してください。

お知らせ

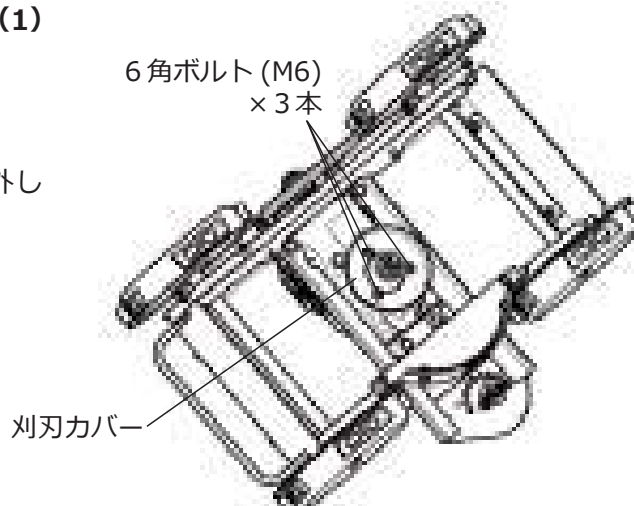
- オイラー（油さし）を使用すると補給しやすいです。



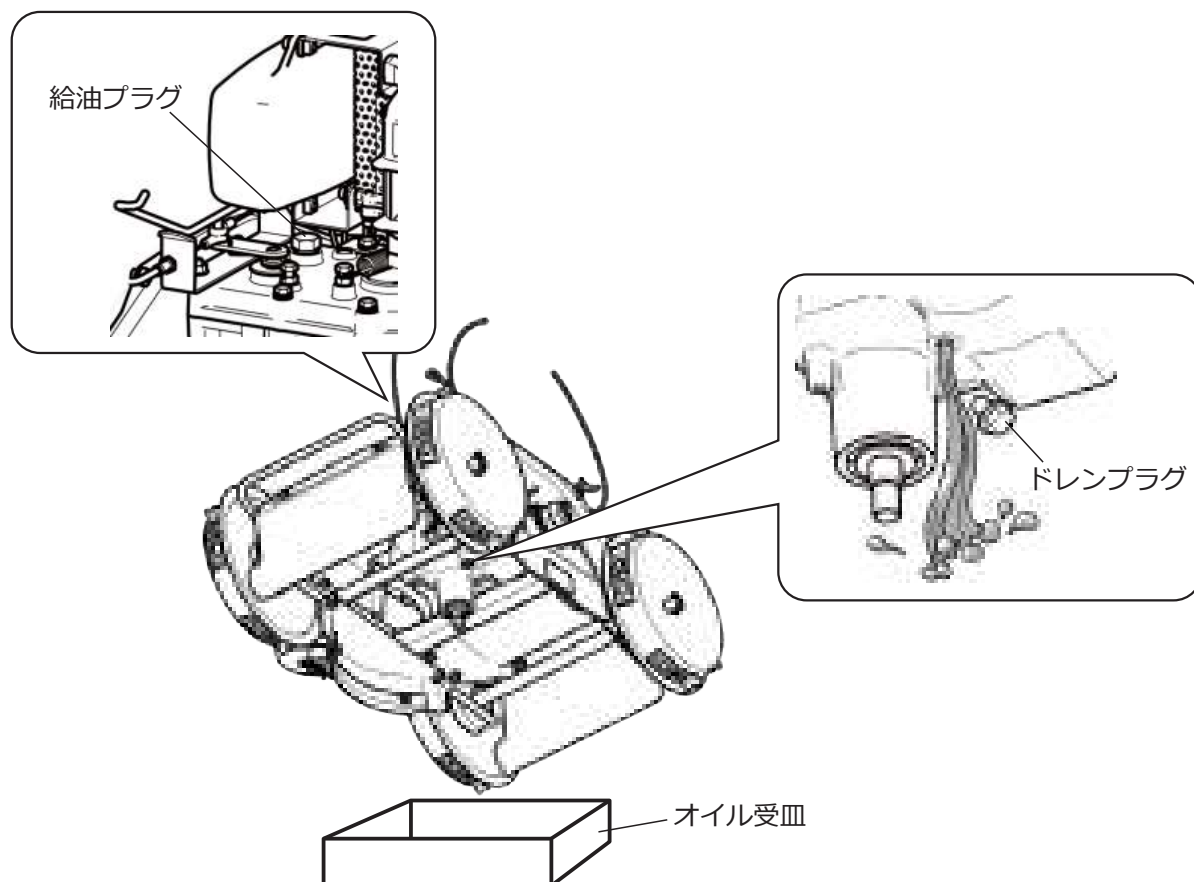
2) 排油のしかた

- ① ホルダを外してください。(35 ページの「(1) 刈刃の交換」を参照してください。)

- ② 3本のボルトをゆるめて外し、刈刃カバーを外してください。



- ③ 給油プラグとドレンプラグを外してオイルを排出してください。
このとき、オイル受皿を用意して排出してください。



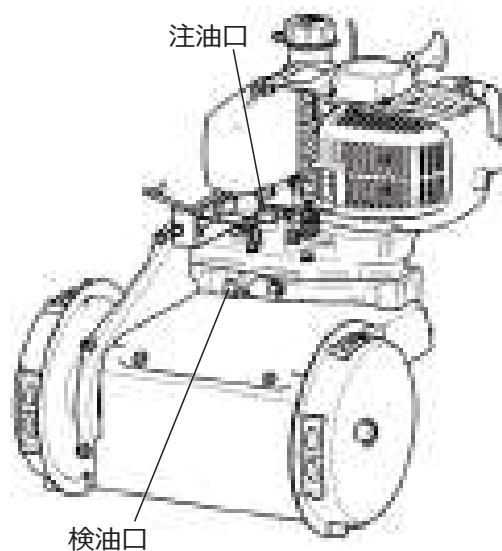
3) 給油のしかた

検油口からオイルがにじみ出るまで給油口から給油してください。給油後、検油口からオイルが出なくなったら給油プラグ、検油栓をしっかりと組み付けてください。

オイルの種類	オイル量
丸山純正ギヤオイル (部品番号 429274) #90	0.8L

お知らせ

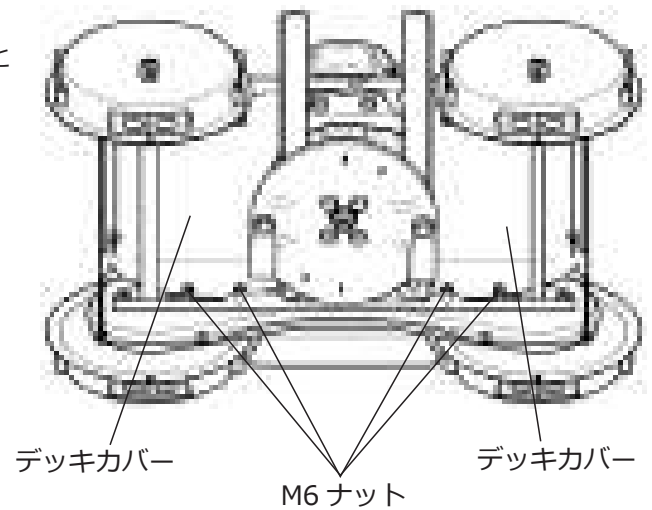
- オイラー（油さし）を使用すると補給しやすいです。



(12) デッキカバーの外し方

刈刃周辺の泥や草を取り除くため、デッキカバーを取り外してください。

図の M6 ナット (前後左右合わせ 8 個) を取り外すとデッキカバーを取り外せます。



9. 混合燃料の作成

混合燃料についての専門知識や技能がある方で、ご自分で混合燃料を作る場合は下記の手順で実施してください。

危険



- ガソリンおよび混合燃料は引火性の高い燃料です。取り扱いおよび保管の際は必ず火気厳禁を守ってください。
守らないと火災に至ります。
- ガソリンおよび混合燃料を保管する場合、金属製の容器に入れ可燃性の気体が漏れ出さないよう密栓をし、火気や火花を発する機械器具などから離れた、直射日光の当たらない、通風、換気の良い場所で静電気が帯電しないように容器を直接地面に触れる（アース）ようにして保管してください。
守らないと火災に至ります。

注意



- 購入から 1 カ月以上たったガソリン（お客様が作成した混合燃料を含む）は、本製品に使用しないでください。
変質したガソリンを使用すると、エンジンの故障に至るおそれがあります。

お知らせ

■ ガソリンの購入について

令和 2 年 2 月 1 日から危険物の規制に関する規則の一部を改正する省令（令和元年総務省令第 67 号）により、ガソリンを販売するため容器に詰め替えるときは、顧客の本人確認、使用目的の確認及び販売記録の作成を行うこととされました。そのため、ガソリンを購入する際は本人確認書類の提示の要求や使用目的が聞き取りされ販売業者に販売記録が作成されます。ガソリンスタンドで購入の際は本人確認書類・消防法令に適合した金属製のガソリン携行缶を用意し、ガソリン購入時に販売記録の作成に協力してください。

1) 混合比率

無鉛ガソリンと市販の 2 サイクルエンジンオイル（※）、市販の燃料混合器（内部がきれいで水分のない状態であるもの）を用意してください。ガソリンとエンジンオイルの混合比率は下表に示す通りです。

ガソリン	オイル（※）
50	: 1
ガソリン 1 L の場合はオイル 20 mL	
ガソリン 5 L の場合はオイル 100 mL	

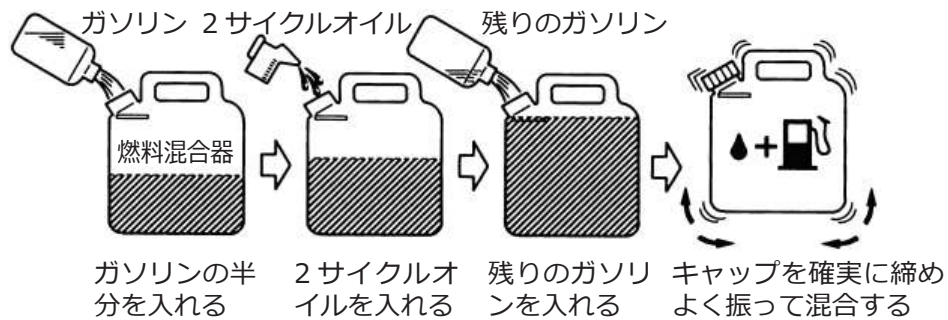
- 2 サイクルエンジンオイル（※）は、JASO 性能分類の FD または FC 級をお使いください。
- 上記指定以外のオイルや混合比は、エンジンの破損や不調に至ることがあります。

2) 混合の仕方

- ① 燃料混合器に混合するガソリンの半分を入れてください。
- ② 規定量のオイルを入れ、残り半分のガソリンを入れてください。
- ③ 燃料混合器のキャップを確実に締めた後、よく振ってガソリンとオイルを混合してください。

お願い

- 混合燃料は、必ず燃料混合器で作ってください。



お願い

- 残った混合燃料は、15 ページの「(5) ガソリンおよび混合燃料の廃棄」に従って処分してください。

10. 長期保管

■ 本製品を長期間（1 か月以上）保管する場合は、下記の手順で整備をしてください。

本製品の汚れを落とし、**34 ページの「8. 点検・整備」**に記載の下記の(1)～(12)を行ってから保管してください。なお、点検・整備ができない場合は、ご購入の販売店または弊社サポートセンターにご相談ください。また、損傷箇所がある場合は必ず修理してから保管してください。

8. 点検・整備

- (1) 刈刃の交換
- (2) 車輪駆動ボルトの交換
- (3) 駆動チェーンの点検・調整
- (4) 各ワイヤの点検・調整
- (5) エアクリーナの清掃
- (6) スロットルバルブの清掃
- (7) 点火プラグの清掃・調整
- (8) 冷却風通路の清掃
- (9) マフラの点検・整備
- (10) 燃料フィルタ・タンクの清掃
- (11) ミッションオイルの点検・交換
- (12) デッキカバーの外し方



注 意



■ **長期間使用しない場合は、必ず混合燃料を抜き取って保管してください。**

混合燃料が燃料タンク内やキャブレタ内に残ったまま長期保管すると、混合燃料が変質してエンジンが始動できなくなります。**33 ページの「(4) 作業後」**を参照し燃料タンクを空にしてください。

お願い

- 各部を十分に清掃し、保管はチリやホコリが付着しないように注意して火気のない、高温や多湿にならないところに格納してください。

11. 故障と対策

(1) まったく始動しないとき

故障原因	対策
燃料タンクに混合燃料が入っていない。	混合燃料を給油する。
エアクリーナのエレメントが詰まっている。	エレメントを清掃または交換する。 44 ページの「(5) エアクリーナの清掃」 の項目を参照してください。
マフラの排気口にカーボンが詰まっている。	ご購入の販売店に修理を依頼する。
不良燃料や水などが混入した燃料を使用している。	燃料タンク内およびキャブレタ内の燃料を抜き取り、燃料タンクや燃料フィルタ、燃料ホース内を清掃し、正しい混合燃料に入れかえる。 14 ページの「(4) 給油」 および 33 ページの「(4) 作業後」 の項目を参照してください。
燃料フィルタにゴミが詰まっている。	燃料フィルタを清掃または交換する。 47 ページの「(10) 燃料フィルタ・タンクの清掃」 の項目を参照してください。
燃料フィルタが燃料の油面より上にある。	燃料フィルタを燃料タンクの底に押し込む。 47 ページの「(10) 燃料フィルタ・タンクの清掃」 の項目を参照してください。
点火プラグにゴミが付着している。	点火プラグを清掃する。 45 ページの「(7) 点火プラグの清掃・調整」 の項目を参照してください。
点火プラグの電極が消耗している。	点火プラグを交換する。 45 ページの「(7) 点火プラグの清掃・調整」 の項目を参照してください。
燃料を吸い過ぎている。	点火プラグを外し、よく拭き取り、乾燥させる。

(2) 始動するが回転が上がらなかつたり、出力が十分でないとき

故障原因	対策
チョークが全開になっていない。	チョークを全開にする。
主クラッチレバーを十分に握っていない。	主クラッチレバーを、ハンドルにつくまでしっかり握り込む。
エアクリーナのエレメントが詰まっている。	エレメントを清掃または交換する。 44 ページの「(5) エアクリーナの清掃」 の項目を参照してください。
スロットルワイヤの遊びが大きすぎる。	ワイヤアジャスタ(スクリュ)の調整をする。 38 ページの「(2) 車輪駆動ボルトの交換」 の項目を参照してください。
燃料混合比を誤っている。	正しい混合燃料比の混合燃料に入れかえる。 51 ページの「9. 混合燃料の作成」 の項目を参照してください。

(2) 始動するが回転が上がらなかったり、出力が十分でないとき(続き)

故障原因	対策
燃料フィルタにゴミが詰まっている。	燃料フィルタを清掃または交換する。 47 ページの「(10) 燃料フィルタ・タンクの清掃」 の項目を参照してください。
エアクリーナのエLEMENTが詰まっている。	ELEMENTを清掃または交換する。 44 ページの「(5) エアクリーナの清掃」 の項目を参照してください。
冷却風通路にゴミが詰まっている。	冷却風通路のゴミを取り除く。 46 ページの「(8) 冷却風通路の清掃」 の項目を参照してください。
刈刃周辺にゴミが詰まっている。	刈刃周辺のゴミを取り除く。 50 ページの「(12) デッキカバーの外し方」 の項目を参照してください。
マフラの排気口にカーボンが詰まっている。	ご購入の販売店に修理を依頼する。

(3) 回転は正常だが、切れ味が悪いとき

故障原因	対策
刈刃が摩耗している。	刈刃を新しいものに取りかえる。 35 ページの「(1) 刈刃の交換」 の項目を参照してください。

(4) 運転中、回転が次第に下がる時

故障原因	対策
エアクリーナのエLEMENTが詰まっている。	ELEMENTを清掃する。 41 ページの「(4) 各ワイヤの点検・調整」 の項目を参照してください。
刈刃周辺にゴミが詰まっている。	刈刃周辺のゴミを取り除く。 50 ページの「(12) デッキカバーの外し方」 の項目を参照してください。
不良燃料を使用している。	燃料タンク内およびキャブレタ内の燃料を正しい混合燃料に入れかえる。 51 ページの「9. 混合燃料の作成」 の項目を参照してください。

(5) 主クラッチレバーを離してもエンジンがアイドリング回転に戻らないとき

故障原因	対策
スロットルワイヤの取り回しが悪い。	スロットルワイヤの取り回しを正しくする。 別紙の組立説明書 3 ページ⑧項目を参照してください。
キャブレタのスロットルバルブが、吸い込んだ砂などで固着している。 (エアクリーナのエレメントが正しく付けられていない)	市販のキャブレタークリーナなどを噴射して、スロットルバルブを清掃してください。 エレメントとクリーナケースにスキマのない様に正しく取り付けてください。(44 ページの「(5) エアクリーナの清掃」、45 ページの「(6) スロットルバルブの清掃」を参照してください。)

お願い

- 上記についてお調べの上で、故障が直らないときは、ご購入の販売店または弊社サポートセンターにご相談ください。

12. 転売・譲渡・廃棄

転売・譲渡

- 本製品を転売・譲渡する場合は、取扱説明書も同時に譲渡してください。取扱方法についてよく説明し、取扱説明書をよく読むように指導してください。
- 転売先や譲受者に、製品の状況を説明してください。部品が不足している場合や修理が必要な場合は、修理をするように指導してください。
- 保証書も同時に譲渡してください(保証期間内の場合)。

廃棄

- お住まいの地域の自治体の指導に従ってください。

お願い

- 燃料やオイルを廃棄する場合は、お住まいの自治体の廃棄物担当部署または産業廃棄物処理業者に相談し、所定の規則に従って廃棄してください。

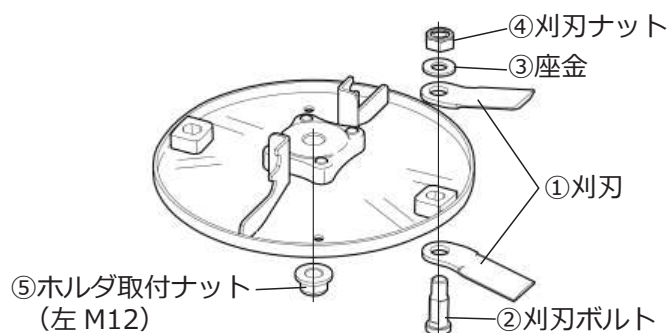
13. 主要諸元

型 式 名		KJ-30
寸 法	全 長 (mm)	1410
	全 幅 (mm)	480
	全 高 (mm)	460
質 量 (kg)		29.4
駆 動 方 式		4WD
変 速 段 数		前後進各 1 段
速 度 (m/ 秒)		0.37
刈 刃 枚 数		フリー刃 X4
刈 幅 (mm)		300
刈 高 (mm)		30(オプションのアダプタへの交換時は 20)
エ ン ジ ン	名 称	FE360
	形 式	空冷 2 サイクル横型ピストンバルブ式
	総 排 気 量 (cm ³)	35.5
	使 用 燃 料	潤滑油混合燃料
	使 用 潤 滑 油	市販 2 サイクルエンジンオイル
	混 合 比	50〔ガソリン〕 :1〔FD, FC 級の市販 2 サイクルエンジンオイル〕
	燃 料 タンク 容 量 (L)	1.1
	気 化 器	ロータリーバルブ式ダイヤフラム
	点 火 方 式	無接点マグネト点火
	点 火 プ ラ グ	NGK BPM8Y 相当
	始 動 方 式	リコイル式 (R スタート)
	停 止 方 式	一次線短絡式 (ロータリースイッチ式)

- 改良のため予告なく仕様を変更することがあります。
- 質量は燃料を除きます。

【交換部品リスト】

部 品 名	部品番号	JAN コード	備 考
クリーナエレメントF	248582	—	白色不織布
クリーナエレメント	248611	—	灰色スポンジ
エアクリーナカバー	279889	—	
ノブボルト	286349	—	エアクリーナカバー用
燃料フィルタ	620679	4941735800113	
タンクキャップ	283438	—	大 / ブリーザ付
点火プラグ	418950	4941735915572	CJ6Y BIG-M 純正
刈刃	243269	—	下図①
替刃 4 枚セット	472999	4941735929814	上記刈刃の 4 枚セット
刈刃ボルト	243270	—	下図②
座金	243271	—	下図③
刈刃ナット	243598	—	下図④
ホルダ取付ナット	232061	—	左ナット (M12) 下図⑤
車輪駆動ボルト	243897	—	38 ページを参照
抜け止めナット	243898	—	38 ページを参照
回り止め工具	243329	—	刈刃交換時用 (標準付属品)



14. オプション(純正品一覧)

()内は部品番号です

オプション
(別売)



ファンクショナルブーツライト

サイズ cm

24.0(409571)

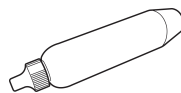
25.0(409572)

25.5(409573)

26.0(409574)

26.5(409575)

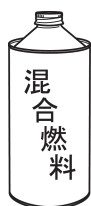
27.5(409576)



グリス
(211337)



フォレストヘルメット
(587526)



純正混合燃料

5年保存タイプ

1L(464087)

2L(464088)

4L(464089)



純正ギヤオイル
90/4L (587526)



刈り高さ変更アダプタ
刈り高さ 20mm
(243842)

サービスと保証について

■ 保証書について

保証書はお客様が保証期間中に保証修理を受けるときに、ご提示いただくものです。所定事項が漏れなく記入されているか確認し、お読みになられた後は大切に保管してください。

本製品を改造した場合や取扱説明書に記載の正しい使用目的と異なる場合や、使用上の誤りは、メーカーの保証対象外になりますので、ご注意ください。

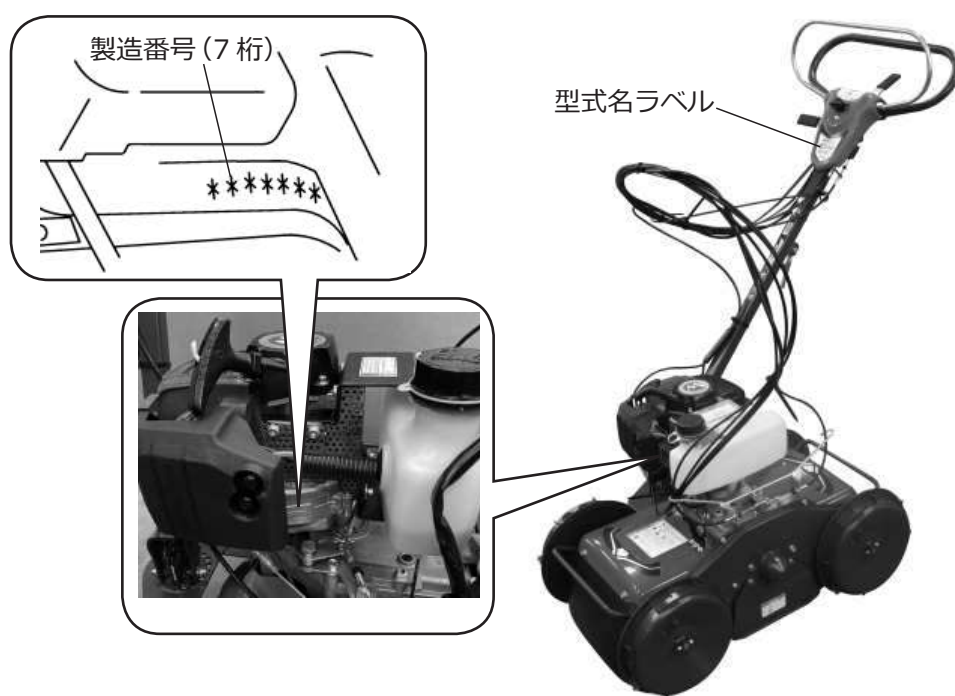
■ アフターサービスについて

○ 本製品を安全にご使用いただくには、正しい操作と定期的な整備が不可欠です。年に一度は、ご購入の販売店に点検整備を依頼してください。このときの整備は有料となります。

○ 始業点検時や使用中に不具合が発見された場合は、直ちに適切な整備をしてください。または、ご購入の販売店にご連絡ください。

○ 連絡していただく内容

- 型式名 _____
- 製造番号 _____
- 故障内容 なにが・どうしたら・どんな状態で・どうなったかを詳しくお話しください。



■ 補修部品の供給年限について

本製品の補修用部品の供給年限は、製品の製造打ち切り後9年です。

ただし、供給年限内であっても、特殊部品については納期などをご相談させていただく場合があります。補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。



しっかり点検！安心・長持ち！
末永くお使いいただくためにも
定期的な点検・整備をお勧めします。

詳しくはお求めいただいた販売店までお気軽にご相談ください。



本製品に関するお問い合わせなどは、ご購入の販売店にご相談ください。または、下記の全国共通の無料通話あるいは丸山製作所ホームページでもお受けいたします。

丸山サポートセンター

無料通話 0120 - 898 - 114

丸山サポートセンターホームページ

<http://www.maruyama.co.jp/support/>



受付時間 9:00 ~ 17:00(土、日、祝日を除く)

本製品に関してお問合せいただく際は、正確にご対応させていただくため、あらかじめ、下記の事項をご準備ください。

- ① 型式名、製造番号
- ② ご購入年月日
- ③ 販売店名

修理依頼、補修用部品・オプションのご注文は、
ご購入の販売店または取扱店へ依頼してください。



株式会社

丸山製作所

本社 / 東京都千代田区内神田 3-4-15 〒 101-0047

この取扱説明書の部品番号は 243328

P/N. 243328-02 22.4 IN